



2009年度チャレンジセンター活動報告書の発行にあたり

チャレンジセンター所長
大塚 滋

チャレンジセンターは、2006年4月に発足して以来、今月でちょうど4年が経過しました。学部で言うなら、今年度は完成年次ということになります。

本報告書ではその完成年次の活動を振り返るわけですが、その意図するところはそれだけにはとどまりません。まさにこの一つの大きな節目の年度にあたり、これまでの4年間の成果と課題を大学全体で共有化し、全学的な議論を喚起することによって、大学が次なる力強い一歩を踏み出すきっかけを提供したいという期待がそこにはこめられています。

当センターは、その発足と同時に、現代GP「東海大学発USR型モデルの創出・実践～多様なヒューマンリソースをマッチングして実践する地域活性化プロジェクト～」の採択を受けましたが、昨年3月、3年間の期間満了とともに、センターの活動の該当部分について総括を行い、詳細な活動報告書をまとめました。したがって、昨年の現代GP報告書と本報告書の両者でもって、4年間の活動成果の全容を知ることができます。

折しも本学は2010年度より、多くの学部でカリキュラム改訂を行い、当センターが教育目標として掲げてきた「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」と、それに加えて「自ら考える力」の、4つの力の涵養を全学共通の教育目標とすることになりました。これらの報告書がこの新しい教育目標の達成に向けた努力の一助になることを願っています。

今年度チャレンジセンターは大きな成果を手にすることができました。まずプロジェクトに関して言えば、世界の舞台で最上の結果を出したプロジェクトや、創意に溢れた地道な活動を外部の団体から表彰された複数のプロジェクトが現れたことです。しかし、私たちが目指しているのは、そのような結果を出すことだけではありません。努力の結果が成功であれ失敗であれ、そこから、次の新たな一歩を踏み出すための指針(学びの課題)を見つけ出してもらうことです。それは、プロジェクト支援も、学生の成長を促す一つの教育プログラムだからです。様々なプロジェクトで活動する多くの学生たちは、日々自分たちの活動を振り返り、日々学び、その結果を次の活動につなげていってくれました。プロジェクト間の協力も活発に

行われ、自発的に共同勉強会が持たれるケースもありました。このようなことこそが最大の成果であると考えています。

チャレンジセンター科目に関しても成果がありました。「プロジェクト入門」という授業の中から一つのプロジェクトが生み出され、発足時からの課題であった授業とプロジェクトの連関を、まだ不十分ではありますが、実現できたこと、「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」という定性的な能力を評価する詳細なルーブリックに基づいた成績評価が実践されはじめ、その結果の検証を通じて、ルーブリックの精度の向上が図られていること、さらに、2010年度カリキュラム改訂に合わせて、4つの力に関する汎用性のあるルーブリック案を作成し、東海大学教育審議会に提案したこと、などです。学生たちに「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」を涵養することを目的とした教育プログラムである以上、評価方法の確立は喫緊の課題でありましたが、今年度、その緒に付けたことは教育機関であるセンターの責任の一端を果たせたと自負しています。

2010年度、東海大学は強い決意に基づいて新たな教育カリキュラムをスタートさせます。チャレンジセンターは、そのカリキュラムを貫く教育目標を体現する中軸組織としての自覚をもって、これからも改革を継続していく予定です。その指導理念は、教育プログラムとしてのチャレンジセンター活動の充実強化です。例を挙げれば、これはすでに2010年度プロジェクト募集の段階から行っていることですが、毎年度のプロジェクト活動における学びのテーマの明確化、活動に対する第三者評価の重視(今年度初めて、最終報告会において、東海大学同窓会長、東海大学連合後援会長、東海大学キャリア支援センター所長による講評を受けることにしました。)、ルーブリックによる評価の全学化、などです。これらの改革を実現させることは、ひとりチャレンジセンターの教職員だけではできません。全学の教職員が協働することが是非とも必要です。

この報告書が、その協働を実現するためのきっかけになることを期待しています。

2010年3月

INDEX

2009年度 チャレンジセンター活動報告書の発行にあたり	1
チャレンジセンター支援体制	5
2009年度のチャレンジセンターの活動	7
チャレンジプロジェクト募集における新制度の始動	9
2009年度プロジェクト活動報告	10
チャレンジセンター科目	38
チャレンジセンタールーブリック(教育目標)を使った教育実践の取り組み	41
FD研究会	43
広告媒体物 (ポスター・チラシ・パンフレット・フリーペーパー)	45
ニュースリリース(湘南キャンパス)	47
メディア露出一覧	47
2009年度活動一覧	49

東海大学チャレンジセンターは、 教職協働で社会に貢献できる人を育てます。

東海大学では、社会で活躍できる人材を育成するため、「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」という3つの力の養成を教育方針に定め、チャレンジセンターを拠点としたプロジェクト活動を支援し、独自科目を開講しています。

チャレンジセンタープロジェクトは、学生主体で自由な企画を立案する「チャレンジプロジェクト」、本学のUSR (University Social Responsibility) 型社会貢献モデルである「特別プロジェクト」、さらに少人数のグループで将来的に「チャレンジプロジェクト」へ成長することを目的とした「ユニークプロジェクト」によって構成されています。2009年度は、チャレンジプロジェクト20件、特別プロジェクト5件、ユニークプロジェクト14件が活動を実施、学部を問わずおよそ1300人の学生が参加しました。どのプロジェクトもプロジェクトコーディネーターやプロジェクトアドバイザーのサポートを受けつつ、学内外の多様な人々との関わり合いの中で目的を追求することによって、自分の新たな側面に気付くことができる貴重な成長の場となっています。

チャレンジセンター科目では、「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」を培うための演習を多く含んだ授業を6名の専任教員を中心に、本学の教員や非常勤講師の協力を得て展開しており、今年度はおよそ5300人（ジャーナリズム実践教育コースおよび観光学副専攻を含む）の学生が履修しました。この科目では、教授法や学生の成長を測る評価方法の開発を改善しながら、社会で活用できるリーダーシップやマネジメントスキルなどを教育しています。

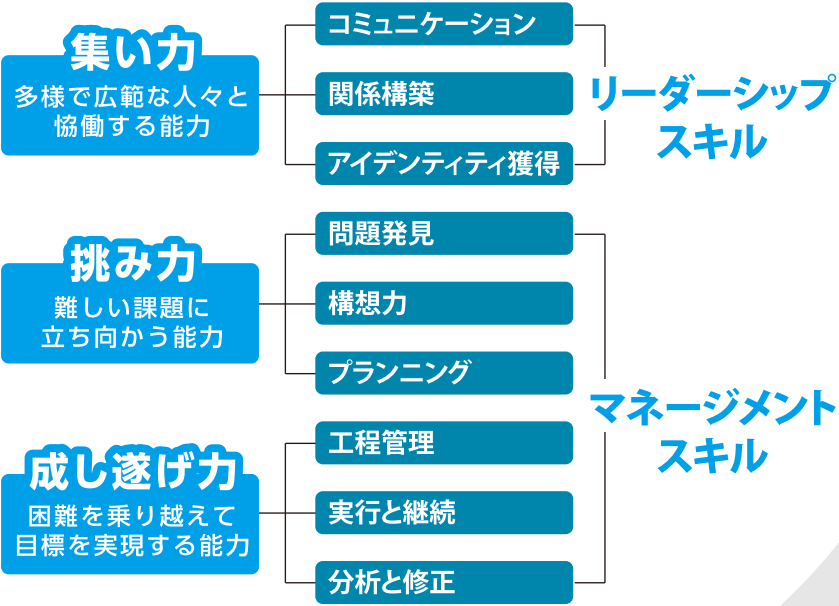
2009年度は、世界最高峰ソーラーカーレース「グローバル・グリーン・チャレンジ」にライトパワープロジェクトが総合優勝を果たしたことをはじめ、多くの学生たちが社会的実践力を磨き、逞しく成長することができました。それらの成果を活かし、チャレンジセンターの「でっかいチャレンジ」はさらに大きく飛躍し、2010年度へ続いていきます。

プロジェクト活動

チャレンジプロジェクトではものづくり系やボランティア系、地域活性系など学部や学科、そして学年の枠を超えた学生たちが意見をぶつけ合いながら、目標の達成に取り組んでいます。チャレンジプロジェクトの認定条件として、総合大学である本学のスケールメリットをいかせるよう「複数の学科を横断してメンバーが構成されている、そして参加人数が50名以上である※」という二つの大きなハードルをクリアしなければなりません。文系理系の枠や学年の壁を越えて、いろいろなタイプの学生が大勢集まれば、ときには意見が合わなかったり気まずくなったりする場面もあります。それらを乗り越え、プロジェクト活動が続けていく中で、今、社会が最も必要としている人間力「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」を身に付けていきます。

※プロジェクトの構成人数は、キャンパスによって異なります。

社会的実践力を 身につけた人材



実体験から学ぶ
「プロジェクト活動」と
理論を学ぶ「科目」が連動し、
「社会的実践力」を
効果的に育成します。

チャレンジセンター科目

チャレンジセンター科目は、従来の大学の授業とは異なる学生自身に「気づき」を促すさまざまな演習を組み込んだ新しい授業です。授業はユニット型（講義と演習をひとつに組み合わせたもの）、プロジェクト型（授業の中で企画を立て、実行するまでを体験するもの）、トレーニング型（毎回の振り返りレポートを作成することにより、繰り返しトレーニングを積んでいくもの）を組み合わせた内容になっており、学生が楽しみながら無理なく勉強できるように構成されています。これらの授業を通して学生は、一般の科目やプロジェクト活動へのアプローチ方法を学ぶとともに、キャンパスライフにおいて自身がぶつかる様々な問題の解決方法を身に付けていきます。

チャレンジセンター支援体制

チャレンジプロジェクトは、教員と職員の協働のもと支援されています。プロジェクト活動の質を高め、より高い目標を成し遂げられるよう人的な支援として各プロジェクトに本学の教職員から選抜されたコーディネーターとアドバイザーを配置しています。

プロジェクトコーディネーター

プロジェクトコーディネーターは、プロジェクト全体の進行状況を把握し、活動全般の相談役や提出書類の作成指導を担います。また、プロジェクトの内容ではなく、予算管理・工程管理に関する指導や、活動が困難な状況の時に円滑に進むよう学生を元気づける「縁の下力持ち」的な役割を担っています。その他、プロジェクトとチャレンジセンター及び大学内外の機関との連携・協力をはかっています。なお、コーディネーターは、チャレンジセンターが実施する事前研修の受講が義務づけられています。

2009年度プロジェクトコーディネーター研修実施概要 湘南キャンパス(5月21、22日)、熊本・阿蘇キャンパス(7月27日、28日)

- 1.どのような能力を開発するのか
- 学生に対する実践教育をサポートし、教育効果を高める力
 - 学生から話を聞き出し、自ら考えさせることができるコミュニケーション力
 - 学生のモチベーションを維持するためのサポート力
 - 自らが所属する組織を活性化させる力、人材育成力

- 2.プログラムの目的
- ①関係構築

担当するプロジェクトの学生と円滑な関係を構築するためのスキルを身に付ける。

②コーチング、ファシリテーション

振り返りを重視し、学びを引き出すスキルを身に付ける。

③動機付け、チームビルディング

1年間を通じたモチベーションの維持、50名のプロジェクトメンバーをチームとして機能させるために必要な能力を身に付ける。

- 3.プログラムの特徴
- アクションラーニングを通じて、現実の問題を取り上げながら、振り返りの効用を体感する。
 - 自らがチーム学習の効果を体感することで、「傾聴力」「質問力」を身に付ける。これにより、学生の実践経験を最大化し、個性を引き出しながら、学習効果を生み出すことの有効性を認識する。

- 4.期待される成果
- ①コーディネーターが学生のプロジェクト運営を支援することで、プロジェクトのチーム力や取り組みの成果が向上する。

②コーディネーター業務を通じて学生と接することにより、大学の職員としての資質やスキルが向上し、大学全体の学生サービスが改善する。

③「傾聴力」「質問力」を修得することで、各職場の組織力やコミュニケーション力が向上する。



【2009年度 チャレンジセンタープロジェクトコーディネーター】

担当プロジェクト名	氏名	所属
キャンパスストリートプロジェクト	深谷 浩憲	チャレンジセンター推進室
病院ボランティアプロジェクト	五十嵐 義和	チャレンジセンター推進室
スポーツ社会貢献プロジェクト	近藤 竜二	チャレンジセンター推進室
障害者自立支援プロジェクト	中西 健人	チャレンジセンター推進室
サイエンスコミュニケーター	荒井 裕貴	企画課
高齢者いきいきプロジェクト	近藤 竜二	チャレンジセンター推進室
日本縦断キャラバン隊(環境キャラバン)	山田 修司	教育支援センター技術支援課
ピーチライフ創生プロジェクト	深谷 浩憲	チャレンジセンター推進室
ライトパワープロジェクト	山田 修司	技術支援課
東海大学学生ロケットプロジェクト	広瀬 光明	情報システム開発課
Tokai Formula Club	岡安 英文	湘南総務課
障がい学生支援プロジェクト	土本 芳則	教育支援課
Green Communications	大島 美知子	図書課
TICC(Tokai International Communication Club)	中村 真伊	国際教育課
Music Art Project	河村 裕文	入学広報課
TOKAI DESIGN PROJECT	青柳 豊和	技術支援課
福祉除雪プロジェクト	池田 隆之	北海道研究支援課
	柳沢 篤寛	北海道研究支援課

担当プロジェクト名	氏名	所属
木工制作でおこなう社会貢献プロジェクト	佐藤 公俊	旭川事務室
東海人力レースポートプロジェクト	舟尾 隆	清水教学課
	鈴木 悟	清水教学課
人と人をつなぐまち沼津	松本 浩	沼津教学課
	堀口 真由美	沼津教学課
	山村 武士	沼津教学課
	出利葉 義次	沼津教学課
	鈴木 克典	沼津教学課
先端技術コミュニティ「ACOT」	石橋 伊織	熊本教学課
	福岡 恵	熊本教学課
	下山 佳祐	九州入学広報課
LINK THE LOCAL	石橋 伊織	熊本教学課
	新村 敏博	熊本教学課
肥後のたまもの【農作物仲介サイト運営】	石橋 伊織	熊本事務課
	六嘉 孝裕	熊本事務課
	高倉 智之	熊本事務課
阿蘇援農コミュニティプロジェクト	高橋 誠二	阿蘇教学課
学生運営スタッフ	高橋 操	チャレンジセンター推進室

プロジェクトアドバイザー

プロジェクトアドバイザーは、専門的知識または技能を持った教職員で学生からの要望によりプロジェクトに配置します。主な役割として、プロジェクト活動に対して専門的な立場から指導・助言を行います。プロジェクトの活動が、より質が高く大きなチャレンジとなるためには、プロジェクトアドバイザーの豊富な知識と経験に裏付けられたアドバイスが必要になります。

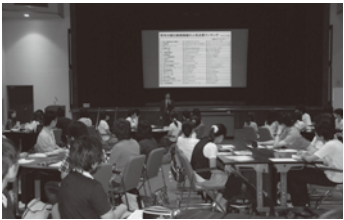
【2009年度 チャレンジセンタープロジェクトアドバイザー】

担当プロジェクト名	氏名	所属
キャンパスストリートプロジェクト	杉本 洋文	工学部建築学科
	岡田 章子	文学部広報メディア学科
病院ボランティアプロジェクト	児玉 千代子	健康科学部看護学科
スポーツ社会貢献プロジェクト	伊藤 栄治	体育学部スポーツリジャーナメント学科
障害者自立支援プロジェクト	尾崎 由佳	チャレンジセンター
	木村 英樹	工学部電気電子工学科
サイエンスコミュニケーター	岡田 工	チャレンジセンター
	園田 由紀子	チャレンジセンター
	広川 美津雄	教育研究所
日本縦断キャラバン隊(環境キャラバン)	藤田 成吉	教養学部人間環境学科
ピーチライフ創生プロジェクト	杉本 洋文	工学部建築学科
	斉藤 寛	清水教養教育センター
ライトパワープロジェクト	平岡 克己	工学部航空宇宙学科
	木村 英樹	工学部電気電子工学科
東海大学学生ロケットプロジェクト	中條 恭一	工学部航空宇宙学科
	那賀川 一郎	工学部航空宇宙学科
	遠山 文雄	工学部航空宇宙学科
	堀澤 秀之	工学部航空宇宙学科
	白澤 秀剛	工学部航空宇宙学科
Tokai Formula Club	柿元 邦彦	工学部動力機械工学科
	向井 恒三郎	工学部動力機械工学科
	森下 達哉	工学部動力機械工学科
	山田 修司	技術支援課

担当プロジェクト名	氏名	所属
障がい学生支援プロジェクト	北野 庸子	健康科学部社会福祉学科
	内田 匡輔	体育学部体育学科
TICC(Tokai International Communication Club)	森山 美紀子	外国語教育センター
	田口 香奈恵	国際教育センター
Music Art Project	梶井 龍太郎	教養学部芸術学科
	二宮 洋	教養学部芸術学科
	田丸 智也	高輪教養センター
	定岡 利典	総合教育センター
TOKAI DESIGN PROJECT	戸谷 毅史	教養学部芸術学科
	水野 雅生	教養学部芸術学科
	申 珠莉	教養学部芸術学科
	中尾 紀行	芸術工学部くらしデザイン科
木工制作でおこなう社会貢献プロジェクト	笹川 寛司	芸術工学部くらしデザイン科
東海人力レースポートプロジェクト	寺尾 裕	海洋学部船舶海洋工学科
人と人をつなぐまち沼津	山崎 剛	開発工学部感性デザイン学科
	東 恵子	開発工学部感性デザイン学科
先端技術コミュニティ「ACOT」	中嶋 卓雄	産業工学部電子知能システム工学科
	佐松 崇史	産業工学部機械システム工学科
LINK THE LOCAL	村上 祐治	産業工学部建築学科
肥後のたまもの【農作物仲介サイト運営】	山崎 松男	総合経営学部マネジメント学科
	備間 敏彦	総合経営学部マネジメント学科
阿蘇援農コミュニティプロジェクト	田中 孝章	農学部応用植物科学科

学生運営スタッフ

学生運営スタッフは、学生の視点から本センターの運営改善に向けた企画を実施するチームです。今年度は、プロジェクトリーダーを対象とした勉強会を2回、研修会を1回開催する他、7月14日には湘南キャンパス松前記念館講堂においてアチーブメント株式会社 橋本卓也氏を講師に招き、「セルフブランディングセミナー」と題した講演会を開催しました。さらに、10月17日に開催された第6回チャレンジセンターセミナーでは企画運営、また各報告会および毎月実施されるプロジェクト協議会においては司会などを担当しました。



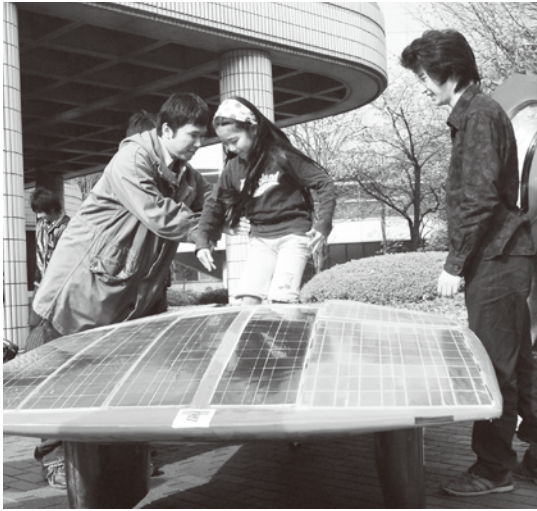
2009年度のチャレンジセンターの活動

4月18日 「科学技術チャレンジフェア2009」を開催

公開科学教室「科学技術チャレンジフェア2009」を湘南キャンパスの松前記念館講堂で開催しました。ものづくり・環境系プロジェクト4団体の学生らが共同で、一般の学生や近隣の方々に、理科やものづくりに興味を持ってもらおうと行った催しで、科学技術館（東京都千代田区）の教育プログラム「ユニバース」の協力を得て実施した企画として、「世界天文年2009」や「科学技術週間」の公認イベントにもなっています。当日は小学生も含め、市民や学生ら多数が参加しました。

イベントは、半田利弘氏（東京大学大学院助教）による科学ライブショーで開幕。コンピュータ・シミュレーションを駆使した教育プログラム「ユニバース」で、太陽系や惑星の状

態を解説し、参加者らは宇宙の様子を大画面で鑑賞しながら、皆既日食が発現する仕組みなどについての説明を聞きました。参加者からは多くの質問があり、7月に迫った日食や天文学への関心の高さがうかがえました。続いて、「学生ロケットプロジェクト」や「ライトパワープロジェクト」、「Tokai Formula Club」、「日本縦断キャラバン隊（環境キャラバン隊）」の4団体の学生メンバーが、日ごろの活動や成果をプレゼンテーション。会場前の屋外スペースに、各プロジェクトによるハイブリッドロケットや気球の模型をはじめ、ソーラーカー、電気自動車、フォーミュラカー、エコカーなどを展示し、講演後も多くの人々で賑わいました。



5月9日 「プロジェクト審査会」を開催

プロジェクトを認定する審査会をTV会議システムで8キャンパスを接続し、開催しました。本企画は、2006年度より毎年5月に公開形式で開催され、その年度に活動を希望するプロジェクトが年間を通じた企画、目標、予算についてプレゼンテーションを行います。その発表と前年度の活動実績をもとに、審査委員（チャレンジセンター実行委員P9参照）が、企画の難易度、行程の適切性、予算運用、社会への影響度など総合的に審査し、採択プロジェクトを決定します。今年度は、審査対象となるチャレンジプロジェクト16件を含め、24プロジェクトが熱心に活動をアピールするプレゼンテーションを行い、湘南キャンパスでは約150名の学生および教職員が来場しました。



10月17日 「第6回チャレンジセンターセミナー」と「プロジェクト中間報告会」を開催

中間報告会をTV会議システムで本学8キャンパスを接続し、開催しました。当日は学生の発表に先立ち、チャレンジセンターの大塚滋所長より「この半年間で各プロジェクトが積み上げてきた活動の成果を客観的に評価し、反省することがさらなる発展につながります。残り半年間の有意義な活動につながる報告を期待しています」との挨拶があり、続いて各プロジェクトの代表者らが上半期の活動内容と反省点、今後の予定などを発表。教職員や学生から「反省点を今後の活動にどう生かすか」「メンバー間の情報共有をどう促進するか」といった質問やアドバイスが寄せられました。また当日は、第6回チャレンジセンターセミナー

「この街に残せるものこの街で得られること〜What's社会貢献〜」も開催。神奈川県内を中心にリユース・リサイクルを通じて社会貢献活動を行っている郡司真弓氏（NPO法人WE21ジャパン理事長）を講師に招き、さまざまな立場の人々との交流や、相手の立場に立って考えることの重要性などをお話いただきました。チャレンジセンターの学生にとって関心の高い内容ということもあって、湘南キャンパスの会場には約190名の参加者が集まり、社会貢献活動における市民セクターの役割や組織運営の方法などについての質問に郡司氏が自身の体験を通してアドバイス。学生らは熱心に耳を傾けていました。



2010年

1月30日 「電気自動車・燃料電池車・ソーラーカー製作講習会」を開催

代々木キャンパスにて、日本太陽エネルギー学会と共催した本講習会には、全国から高校生や大学生、社会人など約300人が参加。2009年10月にオーストラリアで開催され、ライトパワープロジェクトが優勝したグローバル・グリーン・チャレンジの様子をビデオで紹介したほか、同プロジェクトアドバイザーで本センター次長を務める工学部の木村英樹教授と車両設計などをサポートしたヤマハ発動機（株）の池上敦哉さんが、電気的および機械的な側面から参戦車両「Tokai Challenger」について解説。終了後の質疑応答でも、車両の空力特性などについて会場から活発な質問がありました。

その他にも高校や企業・有志団体で電気自動車やソーラーカーのレースに参戦している方々が、それぞれの開発した車両の概要や特性について幅広い観点から講演。熱心にメモをとる参加者が数多く見られました。参加した高校生からは「参考になることが多く、とても勉強になった。できるところから生かしていきたい」といった声が聞かれました。

なお、講習会の合間には、2009年のワールド・エコノ・ムーブ・グランプリの表彰式も行われ、全160チーム中総合9位に入ったライトパワープロジェクトなど、各チームに表彰状や記念品が贈られました。



2月22日 「プロジェクト最終報告会」を開催

湘南キャンパスの松前記念館講堂をはじめとする各キャンパスで、「プロジェクト最終報告会」を開催しました（2009年度採択を受けた7キャンパス全24のプロジェクトが、1年間の活動内容や成果、目標達成度などについて報告する）。当日は、本学連合後援会の田畑日出男会長、本学同窓会の中村宏会長、キャリア支援センターの吉田一也所長（工学部教授）、そして本センターの大塚滋所長（法学部教授）をはじめ、学生や教職員ら合わせて354名（うち湘南キャンパスは235名）が出席。キャンパス間をテレビ会議システムでつなぎ、各プロジェクトの代表者が自分たちの活動を振り返りながら、1年間の活動を通じて身につけた「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」と、今後の課題や反省点などを報告しました。全プロジェクトの発表後には講評会も行われ、「皆さんの活動報告を初めて聞かせていただき、『今の若者にも期待ができる』と思い

ました。」（田畑会長）、「地域や企業、団体などと連携した本センターの活動は、本大学を卒業して社会人となった時に大いに役立つはずです。同窓会としても皆さんの活動を応援し、今後も連携を深めていきたいと思います」（中村会長）とコメントがなされました。また、キャリア支援センターの吉田所長は「面接では多くの企業が、『大学時代に何を経験したか?』『何を成し遂げたのか?』といった質問をします。その時には、やはり最後までやり遂げた成功体験を実感として持っている人が、面接官へのアピール度も高い」と発言した上で、「社会に出ると、多様な背景を持つ人と一緒に働かなければなりません。その中で自分の力をどのように発揮していくのかを考えた時、本センターでの経験は非常に役立つと思います」と、学生たちに語りかけました。



ライトパワープロジェクト

湘南
キャンパス

「ものづくり」を通してエネルギー・地球環境問題に貢献することを目的に立ち上がった「ライトパワープロジェクト」。太陽光を動力源とする「ソーラーカー」、省エネルギー性能を追求する「電気自動車」、人の力だけで飛行する「人力飛行機」の3チームが、それぞれの車両や機体を自ら設計・製作、さらには3チームが協力し合いながら技術の向上に努め、国内外の大会で優秀な成績を修めました。

プロジェクトリーダー 伊藤 樹 工学部 動力機械工学科 2年
サブリーダー① 加島 武尚 工学部 電気電子システム工学専攻 2年 / サブリーダー② 高津 聡 工学部 材料科学科 3年
広報リーダー 山崎 貴行 工学部 動力機械工学科 2年 / 会計責任者 岡部 佑紀 工学部 化学科 2年

参加人数 71人
http://deka.challe.u-tokai.ac.jp/lp/

5月3日・4日 「2009ワールド・エコノ・ムーブ」燃料電池部門で優勝

5月1日(金)・2日(土)に秋田県秋田市拠点センターALVE(アルヴェ)で環太平洋自然エネルギー国際フォーラムが、また3日(日)・4日(月)に同県大潟村ソーラースポーツラインで「2009 World Econo Move(ワールド・エコノ・ムーブ)」が開催され、本プロジェクトが出展・出場しました。「2009ワールド・エコノ・ムーブ」は、鉛蓄電池または燃料電池を用いて、1周約6kmのコースを2時間走行し走行距離を競う競技大会で、電池の状態や天候などさまざまな影響を考慮した車体の省エネ技術、マネジメント力が問われます。今年で15回目を迎えた同大会では、電気自動車部門69チーム中「ファラデーマジック2」が2

位に、燃料電池車部門11チーム中「マジカル燃料電池くん」が見事優勝し、2連覇を達成。ドライバーの伊藤樹君は地元・秋田県立由利工業高等学校出身でもあり、地元のテレビメディアに多く取材され、注目されました。環太平洋自然エネルギー国際フォーラムにおいては、車体の展示説明のほか、プロジェクトアドバイザーである工学部電気電子工学科木村英樹教授(チャレンジセンター次長)が講演及びパネルディスカッションを行いました。



6月20日～21日 環境番組「SAVE THE FUTURE2009」に出展

6月20日(土)・21日(日)放送の環境問題をテーマにしたNHKのTV番組「SAVE THE FUTURE 2009」のイベント特設会場「フェリーチェスの森」に出展し、ソーラーカーの展示および解説を行いました。また、子どもたちを対象にソーラーカー「トライソル」の体験乗車を開催。プ

ロジェクトメンバーは、次世代を担う子どもたちにソーラーカーについて興味を持ってもらうことを目的に取り組みました。また同番組に本センター「日本縦断キャラバン隊」も出演しました。



6月24日～26日 「第4回新エネルギー世界展示会」に出展

幕張メッセで開催された「第4回新エネルギー世界展示会」において「エコカーコーナー」に出展しました。わずか0.1馬力(72Wの電力)で50km/hのスピードでの走行が可能な、超高効率小型電気自動車「ファラデーマジック2」の省エネルギー性能を追求した研究成果をアピー

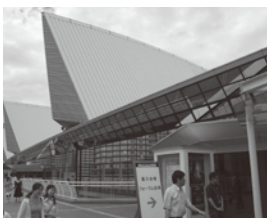
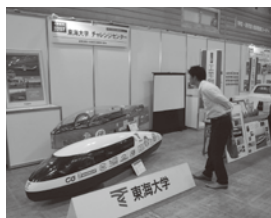
ル。また、5月に開催されたレース「ワールド・エコノ・ムーブ2009」で2連覇を達成した燃料電池車「マジカル燃料電池くん」の高い環境性能については来場者の関心を集めました。見学した方からの質問も多く、学生たちが車体・技術・性能などについて説明しました。



7月15日～17日 国際展示会「AT International 2009」に出展

パシフィコ横浜で開催された国際展示会において、15日(水)に「ファラデーマジック2」と「マジカル燃料電池くん」の展示を行いました。この展示会は「グローバル・モビリティ・イノベーション」をテーマに、電気自動車・ハイブリッド車に代表される環境・燃費技術、高度な

安全技術など今後のカーエレクトロニクスの展望を網羅したもので、開催期間中の来場者数は約2万人を数えました。参加したプロジェクトメンバーは、「今回の展示で触れた多くの最新技術を、今後の活動に役立てたい」と語っていました。



7月22日 「エコカー教室」を開催

湘南キャンパスで開催された皆既日食観測プロジェクト「湘南フォーラム」と共催し、ソーラーカー・電気自動車を利用したエコカー教室を開催。本イベントは子どもたちに環境問題についての重要性を認識してもらうことを目的として、秦野市立大根小学校・広畑小学

校、平塚市立みずほ小学校の児童約100名を対象に行なわれました。エコカー教室終了後、湘南キャンパス2号館2S-101教室に移動し、望星丸からの皆既日食中継を視聴。実際に外に出て部分日食の観測も実施しました。



7月26日 山梨県北杜市「明野サンフラワーフェス2009」でソーラーカーのデモ走行を実施

オープニングセレモニーにおいて、ソーラーカーのデモ走行を行いました。ドライバーは、本学OBで山梨県在住のラリードライバー篠塚建次郎氏。トークショーでは、同氏のラリー経験をはじめ、2008年本プロジェクトのドライバーとして参戦し優勝を果たした「South

African Solar Challenge 2008」(南アフリカ共和国)のエピソード、2009年10月に出場する「Global Green Challenge」(オーストラリア)の抱負などを語りました。その後、明野温泉太陽館でのデモ走行では、本プロジェクトの高い技術力をアピールしました。



9月7日 「グローバル・グリーン・チャレンジ」参戦車両を発表

オーストラリアのダーウィンからアデレード間、約3000kmの走行タイムを競うソーラーカーレースへの参戦車両及び参戦体制の発表会を湘南キャンパスで実施しました。今大会には全世界の大学などから38チームがエントリー。燃料電池や電気自動車が争うエコカー部門とソーラーカー部門があり、本プロジェクトはこのうちソーラーカー部門に出場。学生たちは2008年12月ごろから参戦車両の設計などを開始し、太陽電池、モーター、FRPなど各分野で専門技術をもつ企業からのサポートを受けながら、参戦車両「Tokai Challenger」を製作してきました。報道各社や学内外関係者ら約100人が集まった発表会には、木村英樹教授のほか、チーム

マネージャーの竹内豪さん、今大会にドライバーとして参画する卒業生でラリードライバーの篠塚建次郎氏が出席。高性能な太陽電池を提供いただいたシャープ株式会社代表取締役副社長の濱野稔重氏も出席し、「東海大学のソーラーカー開発技術と篠塚さんのレーシング技術、シャープの太陽電池技術が融合したことで、素晴らしい成績を残してくれることを期待しています」と挨拶されました。記者会見後には篠塚氏によるデモ走行も実施。「Tokai Challenger」が湘南キャンパスを駆け抜けました。ドライブを終えた篠塚氏は「レースを通して若い学生たちに、一つひとつの役割をしっかりとこなしていくことの大切さなどを伝えていきたい」と語っていました。



9月12日 「亀山つなぎん祭」に出展

シャープ株式会社の亀山工場(三重県亀山市)で行われた「亀山つなぎん祭」にソーラーカー「Tokai Spirit」を出展しました。本イベントはシャープ亀山工場が地域交流を目的として行ったもので、多くの地元の方々がご家族連れで訪れ、「どこから乗るんですか?」

「テレビで放映されていた車体ですか?」といった質問が寄せられました。ほかにも、ソーラーカー「Tokai Challenger」のニュース映像の紹介や、本プロジェクトアドバイザー木村英樹教授がFM三重のブースに出演し、ソーラーカーなどの解説を行いました。



10月28日 | 世界最大規模のソーラーカーレース「グローバル・グリーン・チャレンジ」で優勝

〈大会概要〉

「グローバル・グリーン・チャレンジ(GGC)」は、太陽光のみを動力源として、オーストラリアのダーウィン〜アデレード間の総延長3,021kmを走破するタイムを競うレースです。1987年に本レースの前身である「ワールド・ソーラー・チャレンジ」の第1回大会が開催。2007年に開催された前回大会では、アメリカのミシガン大学やマサチューセッツ工科大学、スタンフォード大学をはじめとする32チームが各国の企業の支援を受けて開発したソーラーカーで参戦。また、近年ではオランダのNuon社の支援を受けているデルフト工科大学が4連覇を達成しています。今大会から、温室効果ガス抑制効果の高い燃料電池車や電気自動車のカテゴリーも追加されたことから、大会の名称が「グローバル・グリーン・チャレンジ」に変更され、従来の「ワールド・ソーラー・チャレンジ」は、同大会のソーラーカー部門として位置づけられることになりました。

本学グローバル・グリーン・チャレンジ特設ページ
<http://www.u-tokai.ac.jp/GGC2009/index.html>

10月25日 レース初日、波乱のスタート

レーススタート当日、本大学チームの学生たちは午前5時にスタート会場のダーウィン市の議事堂前に「Tokai Challenger」を搬入し、直前の最終準備に取りかかりました。7時ころからは会場に多くの市民が詰めかけ、お祭りのような盛り上がりを見せていました。

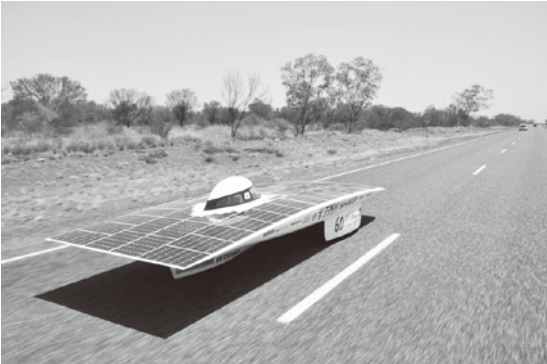
そんな雰囲気の中でも、学生たちは落ち着いた様子で黙々と車両をチェック。

そして迎えた8時30分。予選でトップのタイムを記録した地元オーストラリアのオーロラ・ビークル・アソシエーション(Aurora Vehicle Association)の「AURORA 101」から順に1分毎に出発。予選4位の「Tokai Challenger」は、卒業生の佐川耕平さんがハンドルを握り、8時33分にスタートを切りました。

「Tokai Challenger」はダーウィン市街を順調に走行し、大会規定に定められたチェックポイント(コントロール・ストップ)であるキャサリンに11時24

分に到着。途中トラブルに見舞われた「AURORA 101」やオランダ・デルフト工科大学の「Nuna 5」、ドイツ・ボーフム大学の「Bo Cruiser」を抜いてトップでストップしました。

ドライバーはここで篠塚建次郎さんにバトンタッチ。平均時速100kmほどで順調に走行し、次のコントロール・ストップであるダンマラには14時33分に到着。ドライバーを徳田光太さんに交代し、大会規定の1日8時間の走行時間を迎えた午後5時33分にエリオット郊外で本日の走行を終了しました。走行距離はスタート地点から804km。2位のミシガン大学が746kmで、その差は約50kmほど。初日の走行を終え、同地でキャンプに入った学生たち。徳田さんは「コントロール・ストップを出るときにはドキドキしましたが、走るうちに落ち着きを取り戻しました。明日からも今日のアドバンテージを広げていけるよう頑張っていきたい」と話していました。



10月27日 レース3日目、901kmを快走

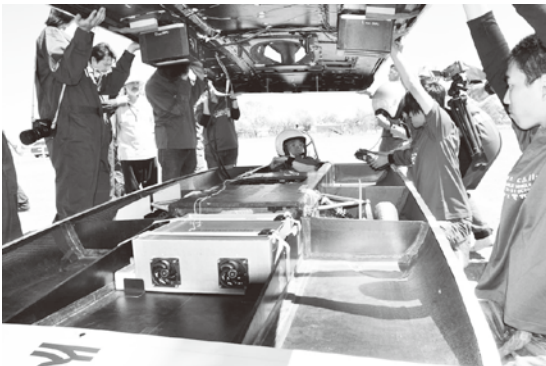
レース3日目、終日快晴。前夜はアリス・スプリングス市内に宿泊し、朝午前5時に、30kmほど離れたスタートポイント(前日の到達地点)に到着。早速、本日の走行に向けた準備を行いました。トップを快走中ということで、学生たちにも少し余裕が見られるようになっていました。

とはいえ、レースの真っ最中。皆で声を掛け合いながら、ソーラーパネルでの充電や足回りのチェックなどの作業を慎重にこなしていました。清宮達也さんも、「まだ浮かれてはいけない。一つひとつの作業をしっかりとやっていきたい」と話していました。

準備を整えた「Tokai Challenger」は、アリス・スプリングスの近郊を朝8時にスタート。最初のドライバーを徳田光太さんが務め、最高速度123km/hを記録。10時8分に次のコントロール・ストップであるカルゲラに到着しました。ここでドライバーを篠塚建次郎さんに交代し、10時18分に次のクーパー・ビディに向けて出発。この区間は今回のレースで最長の約400kmにわたる長丁場でしたが、篠塚さんの安定したドライビングで14時10分に無事に到着しました。クーパー・ビディからは佐

川耕平さんがハンドルを握り、17時07分に、この日最後のコントロール・ストップとなるグレンダンボに到着し、ここで3日目の走行を終えました。

3日目の走行距離は東京〜広島間に相当する901km。これまでの3日間で最も長い距離を走りました。すでに合計の走行距離は2400kmを超えていますが、大きな故障もなく車両は順調に走行。篠塚さんは「時々路面の影響で車両が振られる場面もあったが、風の影響も少なく無事に走行できました」と話していました。佐川さんも「非常に安定していて、安心して走ることができました。学生たちの作業の熟練度が上がってきているので、ミス無く作業をしていければ良い結果を迎えることができと思います」と語っていました。なお、ミシガン大学(アメリカ)を抜いて2位になったデルフト工科大学(オランダ)とは約230km、3位のミシガン大学とは約235kmの差でした。



10月28日 フィニッシュ地、アデレードに到着。優勝!

天気は明け方から若干雲が多め。海に近く湿度が高い地域を走ることもあって、太陽が雲に隠れる場面も見られましたが、おおむね晴れでした。学生たちは、朝5時から出走準備作業を行いました。残り540km余り、優勝が期待できる首位からのスタートですが、皆真剣な様子。下崎友大さんが、「ゴールに向けてやることをしっかりとやるだけです」と語った通り、足回りのネジやサスペンションの調整、電気系統のチェックなどを入念に行いました。

レースは、午前8時37分にスタート。まずは佐川耕平さんがハンドルを握り、次のコントロール・ストップとなるポート・オーガスタには10時21分に到着。順調なドライビングを終えた佐川さんは「学生たちが頑張ってくれたおかげで車両の調子は完璧です。運転を楽しむことができました」と話していました。

ドライバーはここで篠塚建次郎さんに交代し、フィニッシュ地点のアデレード郊外まで最後のセクションに臨みました。このセクションも順調に走行していましたが、フィニッシュまで約220kmの地点で左前輪がパンクするアクシデントが発生。車両を路肩に止めての復旧作業が行われました。突然のアクシデントではありましたが、学生たちは声をかけ合いながらじん速に作業を行い、8分でタイヤ交換を終了。その他の部分に損傷が

無いことを確認して、再度出発しました。そして14時39分。篠塚さんがドライブする「Tokai Challenger」はアデレード郊外のフィニッシュ計測地点に到着し、約3000kmにおよぶレースを優勝で飾りました。

この優勝は、日本の大学チームとして初めて。しかもこれまでこの大会を4連覇していたオランダのデルフト工科大学を破ったの快挙となりました。レースを終え、木村英樹教授は「国内外の多くの企業の方々から企業の枠を超えたご協力をいただいたこと、学生たちが集中して取り組み、皆で協力しながら苦しい局面を乗り越えられたことが今回の勝因です。この経験を財産として、将来は環境問題やエネルギー問題に立ち向かうエンジニアとして頑張ってもらいたい」と語りました。チームリーダーの竹内豪さんは「あがれていたこのレースで優勝できたことは本当にうれしい。皆がしっかりと自分の役割を自覚し、すべての作業を確実に進められたことが今回の勝利につながったと思います」と述べ、伊藤樹さんは「チームとして目標をしっかりと持つことの大切さや、決して華やかではない一つ一つの作業をしっかりとこなしていくことの大切さなど、多くのことを学びました。世界でトップレベルのチームを間近に見て、技術的にも参考になることが多かった。」と話していました。



11月4日 | 「グローバル・グリーン・チャレンジ」優勝報告会を開催

帰国した本プロジェクトのソーラーカーチームが、東京・霞が関の本学校友会館で優勝報告会を開催しました。会場には、国内外から多くのジャーナリストやメディア関係者らが参加。チームリーダーの竹内豪さんと、木村英樹教授らがレースの様子や各種データ、参戦を通じて得たさまざまな成果について報告しました。

報告会には、竹内さんら学生13人のほかに、「Tokai Challenger」のハンドルを握っていただいた世界的ラリードライバーの篠塚建次郎さん、車両製作にあたって高性能な化合物太陽電池を提供していただいたシャープ株式会社の濱野稔重代表取締役副社長らにもご出席をいただきました。また、本学の松

前達郎総長があいさつに立ち「本大学には産学連携でさまざまな成果をあげてきた歴史があります。今回も多くのご協力にいただきました。今後も学生たちの夢を支えるためにご支援をお願いいたします」と語りました。竹内さんは「世界的な大会を通じて、プロジェクトを遂行する難しさと達成感を実感することができました。優勝という結果を残せたことを嬉しく思っています。今回の結果に甘んじることなく、挑戦を続けていきたい」と述べていました。



NHK総合とBSHiなどでGGCでの活躍を紹介

「グローバル・グリーン・チャレンジ」での活躍を紹介するドキュメント番組が、NHKの総合テレビとBSHiでそれぞれ放送されました。NHK総合テレビでは、2010年1月23日(土)放送の番組「ワンダー×ワンダー」に登場。本プロジェクトをサポートした世界的なラリードライバー・篠塚建次郎さんや本学工学部の木村英樹教授や学生らも出演。「ソーラーカー大陸縦断レース」と題し、ソーラーカー技術やレースの全様、プロジェクトメンバーをはじめ、それに挑戦する人々の活動が紹介されました。またBSHiビジョンでは、2月21日(日)にハイビジョン特集「大陸縦断3千キロソーラーカーが走る!」で取り上げられました。番組では、GGC優勝に挑む「ライトパワープロジェクト」の新型ソーラーカー開発の様子から密着取材。世界各国のライバルチームの動向にも触れながら、豪州縦断3000キロのレースの様子が紹介されました。



シャープの広告にも、ソーラーカーが登場

シャープ株式会社は、11月12日に読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞の各紙において、広告「グローバル・グリーン・チャレンジ優勝篇」を掲載。同社のソーラーパネルを搭載した「Tokai Challenger」が世界最大級の過酷なソーラーカーレースを制覇したことに対し祝辞をいただきました。また、2010年1月1日からは、TVCM「太陽とシャープソーラーカー」篇(30秒)を放映。「オー・ソレ・ミオ(私の太陽)」のBGMにのせて、女優の吉永小百合さんのナレーションとともに、本プロジェクトチームのレース参戦映像が放映されました。さらに、シャープWEBサイト上にも特設ページが設けられ、大会リポートが掲載されました。

http://www.sharp.co.jp/corporate/solar_car2009/index.html



12月5日・6日 | 平塚工科高等学校「平工祭」に出展

人力飛行機チームは神奈川県立平塚工科高等学校で開催された「平工祭」において、人力飛行機「Fennel」の片翼やプロペラなどのパーツ、電気自動車「ファラデーマジック2」、活動紹介パネルの展示と解説を行いました。会場には同校の在校生と保護者、OB・OG、近隣の住民の方々が訪れ、約15mある「Fennel」の片翼や、回転するプロペラ、電気自動車などに注目が集まっていました。



12月10日～12日 | 日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2009」に出展

東京ビックサイトで開かれた日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2009」(主催:産業環境管理協会/日本経済新聞社)に出展しました。「エコプロダクツ2009」は、企業や自治体、大学などエコロジーにかかわる約720団体が、環境技術やサービスなど環境問題の解決につながる新しいビジネスモデルを展示・紹介する催しです。11回目を迎えた2009年は「問い直せ、日本のカ〜ソーシャルパワー元年〜」をテーマに各種展示やセミナー、シンポジウム、テーマ別エコツアーなどが行われ、3日間で約18万人が会場を訪れました。

本学の展示ブースは会場内の「大学の環境対策推進コーナー」に設けられ、本学が展開して

いる太陽光発電や風力発電に関する研究成果として「東海大学チャレンジセンター・ライトパワープロジェクトソーラーカーチームの活動」や「湘南キャンパスで稼働している風力発電システム」についてパネルやDVD映像などを使って紹介しました。またシャープ株式会社のブースでは、同社から提供された太陽光パネルを搭載した、ソーラーカー「Tokai Challenger」を展示。合わせて、学生たちが優勝をはたしたレースの様子などが映像で紹介され、来場者はソーラーカーとともに熱心に見学していました。



12月12日 | 「ものづくり教室」を開催

人力飛行機チームが、湘南キャンパスにおいて、神奈川県秦野市立大根小学校と幼稚園の子どもを対象に「ものづくり教室」を開催し、ペーパークラフトを用いた飛行機とゴム動力飛行機の製作指導を行いました。本企画は、子どもたちに身近なところにある科学の不思議を体感し、その原理や仕組みを理解してもらうことを目的として実施しました。イベントには24人の子どもと保護者の皆さんが参加され、本プロジェクトメンバー指導のもと、子どもたちが各自で紙飛行機を製作し、中には一人で何機も製作した熱心なお子さんもありました。完成後はキャンパス内の運動場に出て実際に紙飛行機を飛ばしました。最初は上手にでき



東海大学 学生ロケットプロジェクト



高度1000mまで飛ばしロケットを、手作りで製作しています。主な活動はハイブリッドロケットと呼ばれる安全なロケットの打ち上げ実験で、毎年夏と冬の2回の打ち上げを実施。またカンサットと呼ばれる小型の模擬人工衛星を使った競技会にも毎年参加。このようなものづくり活動を通して、機械、電気回路、化学などの技術や、団体活動のノウハウを学んでいます。また、宇宙関係のイベントなどでの独自の広報活動も行いました。

プロジェクトリーダー 神保 明菜 工学部 航空宇宙学科航空宇宙学専攻 4年
 サブリーダー① 丸山 信也 工学部 航空宇宙学科航空宇宙学専攻 4年 / サブリーダー② 園田 拓也 工学部 航空宇宙学科航空宇宙学専攻 4年
 広報リーダー 鈴木 亮 工学部 航空宇宙学科航空宇宙学専攻 3年 / 会計責任者 榎本 地大 工学部 航空宇宙学科航空宇宙学専攻 3年
 参加人数 51人
<http://www.ea-u-tokai.ac.jp/srp/>

7月5日～12日 | 「ISTS (International Symposium on Space Technology and Science) 国際宇宙展示会」に出展

つくば国際会議場(つくば市竹園)で開催された第27回ISTS(宇宙技術および科学の国際シンポジウム)に出展しました。会場では、当団体が所属する大学宇宙工学コンソーシアム(UNISEC)に提供された展示エリアのなかで、実際に打ち上げられたハイブリッドロケットの機体とパネル展示をおこないました。また、1月に打ち上げを行ったアラスカ大学との共同観測ロケットや、2009年3月に行われたハイブリッドロケットの打ち上げ映像を公開しました。

本学のブースには国内外から参加した企業の皆様や、小学生から大学生まで多くの方々を訪れました。来訪者からは「ハイブリッドロケットとはどのようなものなのか」、「ロケットはどこで打ち上げているか」、「チャレンジセンサーとは何か」といった質問が寄せられ、本学学生が解説に当たりました。また、「他大学のブースについても本学学生が説明を担当するなど協力し合い、互いの活動に対する理解を深め、視野が広がった」とメンバーは感想を述べていました。



8月7日 | 「飛べ!学生ロケット」と題した講演会を開催

「機械の日(日本機械学会制定)」に、東京・上野の国立科学博物館にて講演会を行いました。この講演は7月28日から8月10日まで同館で開催された企画展「日本先端科学技術の紹介」の一環として、子どもたちに少しでも科学や機械に興味を持ってもらえるように行われたもので、本大学のほかにも、早稲田大学、芝浦工業大学が講演を行い、小学生や保護者など30人を超える参加がありました。広報班の3人が担当した今回の講演では、機体やエンジンを作る様子や、実際にロケットを

飛ばす様子を映像で紹介。夏休み期間中で来場していた小学生にも大好評でした。プロジェクトリーダーの神保明菜さんは「子ども向けの講演なので、簡単な言葉で、なおかつ正確にすべてを伝えなくてはいけません」と話していました。また、講演後にはロケットの機体や自作エンジン、燃料などの展示も行い、実際に手で触れた小学生や保護者たちは、ロケットの構造やプロジェクトの活動について熱心に質問をしていました。



8月20日～26日 | 能代宇宙イベントでロケットの打ち上げを実施

能代宇宙広場(秋田県能代市浅内鉾津堆積場)で行われた日本最大規模のロケット打ち上げおよび自律ロボット制御を競うアマチュア大会で、ハイブリッドロケット打ち上げ部門に参加し、25日(火)に「H-19」、26日(水)に「H-20」の打ち上げを行いました。「H-20」ロケットは、ロケット製作20機目を記念して企画された、アニメ「新世紀エヴァンゲリオン」の「初号機」をモチーフにしたハイブリッドロケットで、製作にあたり同アニメの製作元である株式会社ガイナックスより許諾を

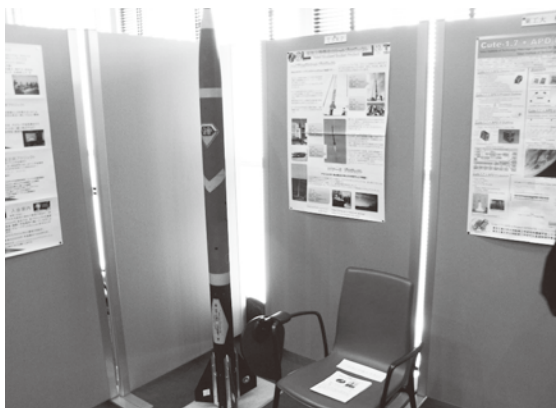
いただきました。一般公開日の23日には、会場内のブースでパネルとハイブリッドロケット、エンジンや実際に使用している燃料の展示、活動紹介の動画公開を行いました。また、子供たちにロケットについて興味を持ってもらおうと、ロケットダーツのイベントを実施。参加した皆さんにご好評いただきました。メンバーは、「他大学の方々や来場者の皆様と交流することができ、得るものが多く勉強になった」と語っていました。



9月19日・20日 | 「宇宙開発フォーラム(Space Development Forum)」に出展

東京大学本郷キャンパスの武田ホールにて行われた「宇宙開発フォーラム」に出展しました。本イベントは、多様化する宇宙開発に対応できる人材育成のため「文系と理系の融合」を目指し、毎年開催されているもので2009年は約200人が来場しました。本プロジェクトは、ハイブリッドロケットの機体およびパネル展示を行ったほか、活動について発表する「ポスターセッション」に参加しました。パネル展示会場では多くの方が、国内の大

学で唯一ロケットエンジンを自作している本プロジェクトの活動について関心を寄せて下さいました。参加したメンバーは、「宇宙開発は技術的な側面のみならず、ビジネス・政治・法律・外交などとも関係しています。法律やビジネスに関して学んでいる学生や、宇宙事業に携わる企業の方々と宇宙開発の現状や可能性に関して議論できたことは、視野を大きく広げることになりました。」と話していました。



10月3日 | 「第19回モデルロケット全国大会」に出場

宇宙航空研究開発機構・筑波宇宙センター(茨城県つくば市)で行われた第19回モデルロケット全国大会に出場しました。本大会は、火薬ロケットエンジンを使用し、紙・木・プラスチックなどの非金属で製作されたモデルロケットの普及を目的として開催され、全国各地から集ったライセンス保有者59名が種目ごとに競いました。本プロジェクトは「定点着地競技」と「高度競技」に参加。「定点着地競技」は雨天による中断があり、2回目の計測が中止となりました。一

度きりの計測実施の中、メンバーの川崎 謙君(工学研究科電気電子システム工学専攻2年)が、37名中(失格者を除く)4位と健闘しました。また他メンバーは全員初出場ながらも安定した飛行を行い下記の通り記録を残しました。

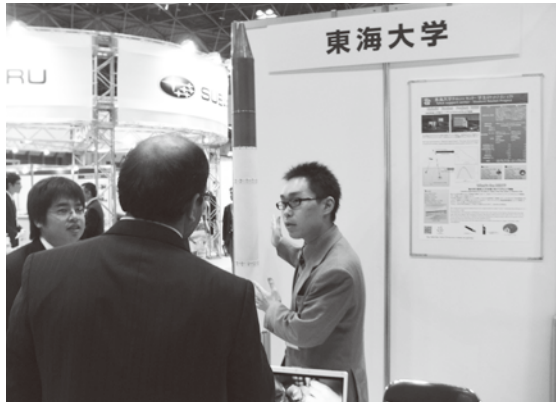
定点着地競技 (37名参加・失格者を除く)		高度競技 (30名参加・失格者を除く)	
川崎謙	4位	川崎謙	記録なし
榎本地大	11位	岸田知基	21位
戎野知輝	29位	戎野知輝	22位



11月4日～6日 | 「東京国際航空宇宙産業展(AEROSPACE INDUSTRY EXHIBITION TOKYO)2009」に出展

本展示会は日本の航空宇宙関連産業の技術の高度化と振興を目的に東京ビッグサイトにて開催されたもので、重工業系企業、大学、警視庁、東京消防庁航空隊など、海外8カ国を含む286団体が出展しました。本プロジェクトはパネル展示およびパンフレットの配布、活動の紹介とあわせ、2010年3月、海に向かって打ち上げ予定の、日本の学生団体としては初の試みとなる高高度到達を目標としたハイブリッドロケット「H-XL」の実物大模型を展示しました。

主催者が用意したフロアマップの裏面にはアニメ「新世紀エヴァンゲリオン」の「初号機」をモチーフにして製作したハイブリッドロケット「H-20」の打ち上げ写真が掲載。Webサイト「Robot Watch」では、展示ブースの記事も取りあげられました。参加したメンバーは、「たくさんの参加企業、大学から、とても学ぶ事が多かった。航空宇宙分野は魅力的なことばかりだった。他の大学も、様々な専門的分野をやっていて、勉強になった」と感想を述べていました。



2010年3月19日 | 「第8期ハイブリッドロケット打ち上げ実験」を実施しました

旧能代海水浴場(秋田県能代市)にて、ロケットを高く打ち上げること、発射場の開拓や回収技術の確立を主な目的として、日本の学生ロケット団体では初めて、海上をターゲットに打ち上げる“海打ち”に挑みました。地元の関係機関との折衝は、本学卒業生で本プロジェクトのリーダーを務めていた秋田大学工学資源学部の和田豊助教が協力。地元漁協に回収船を提供してもらうなど、手厚い支援を受けることができました。今回の実験に用いられたロケット「TSRP-21」

には、気圧計やカメラに加え、海上での回収を前提に観測結果を送信するテレメータや現在位置を知らせるGPSを搭載。高度は、これまでの実験でも実績のある400メートルを目指しました。残念ながら、ロケットは発射間際に燃料タンクとエンジンに不具合が起き、打ち上げ自体は失敗に終わりました。打ち上げ全体の運営を担当した田中成明さんは「実験に失敗は付きもの。打ち上げ直前まで準備し、進められたことが一つの成果だと思っています。」と語りました。



Tokai Formula Club

湘南
キャンパス

世界7カ国で開催されるFormula SAE 競技に参戦するためのフォーミュラカーを企画・設計・製作。ビジネスプランの構築から、マシンの商品性をアピールするためのプレゼンテーション、マネージメント、スケジュール管理まで、すべての要素において高いレベルが要求されます。また、総合的かつ専門的な能力を身につけ、社会に貢献できる人材となることを目指して、完成した車両の展示、解説といった、多くの人にもものづくりへの理解・関心を深めてもらうための活動も実施しました。

プロジェクトリーダー 瓜生 尚樹 工学部 動力機械工学科 3年

サブリーダー 部築 義幸 工学部 動力機械工学科 2年

広報リーダー 山崎 悠平 工学部 動力機械工学科 3年 / 会計責任者 山口 大地 工学部 動力機械工学科 2年

参加人数 53人
http://formula.shn.u-tokai.ac.jp/

9月9日 ～12日 「第7回全日本学生フォーミュラ大会」に参戦

小笠山総合運動公園エコパ(静岡県袋井市)にて開催された「第7回全日本学生フォーミュラ大会」に、「TF2009」で参戦しました。本競技は、大学院、大学、短大、高専、又は短大相当の専門学校の学生がチームを組んで企画・設計・製作したフォーミュラスタイル小型レーシングカーの走行性能・車両コンセプト・設計・コスト審査など、ものづくりの総合力を競う大会です。参加車両はFormula SAE®のルールに準拠して作られ、車両の構成部品も安易に市販品等を用いず、できる限り学生自らが製作

することをモットーとして行われます。

2009年度はエントリー数がおよそ80校、本大会参戦校66校と例年に比べ非常に多くのチームが参加する大会となり、その中で東海大学の専門学校の学生がチームを組んで企画・設計・製作したフォーミュラスタイル小型レーシングカーの走行性能・車両コンセプト・設計・コスト審査など、ものづくりの総合力を競う大会です。参加車両はFormula SAE®のルールに準拠して作られ、車両の構成部品も安易に市販品等を用いず、できる限り学生自らが製作



9月26日 ・27日 東京都立科学技術高等学校文化祭に出展

東京都立科学技術高等学校の文化祭に参加し、2008年に行われた第6回全日本学生フォーミュラ大会に参戦した車両「TF2008」を展示しました。本イベントへの出展は、同校を卒業したOBが本プロジェクトに在籍していることから実現したもので、車両の展示のほかにプレゼンテーションを行い、活動内容と技術力についてアピールしました。展示ブースに訪れた方からは「この車両はどうやって動いているのですか?」「車両を製作

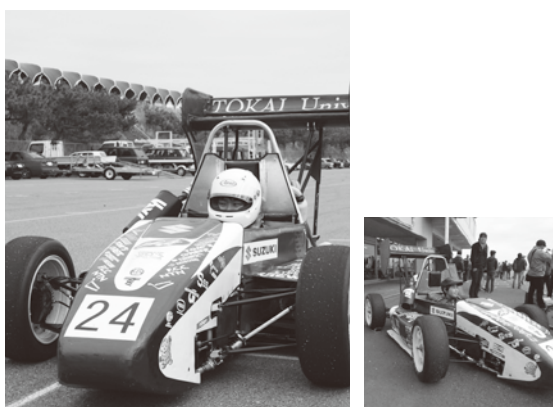
するのにどのくらいの費用がかかるのですか?」「本当に大学生だけで製作したのですか?凄いですね」といった質問を受けました。また、親子連れの方も多く、「小さなお子さんたちにもものづくりの魅力について興味を持ってもらうことができた」とメンバーは喜んでいました。



11月29日 「第42回SHCCミーティング」に参加

大磯ロングビーチ(神奈川県中部大磯町)で開催された本大会は、湘南ヒストリックカークラブの主催で行われたもので、1969年までに生産された車両が、主催者に許可を得た車両のみの参加による、ジムカーナ形式の競技大会です。車両はフェアレディ、スーパーセブン、フィアット850など約100台が出場し、会場には約300人の観客が集まりました。本プロジェクトが作成した車両「TF2009」は、特別枠としてデモンストレーション参加しました。1回目の走行で5位、2回目には優勝候補

を抑えトップタイムをマークし、観客の皆さんからたくさん声援をいただきました。また、車両の展示と製作過程や技術についての解説を行ったほか、ものづくりに興味を持ってもらうことを目的として、子どもたちを対象に試乗体験と記念撮影会を実施し、ご好評いただきました。参加したメンバーは、「多くの車両を見学することで勉強になり、フォーミュラカーの運転経験も積むことができて、今後の大会参加に向けての良い経験になった」と述べています。



先端技術コミュニティ「ACOT」

熊本
キャンパス

Silverlight、FlexなどのRIAと呼ばれるWEBアプリケーション、SunSpotなどの無線センサーネットワークデバイス等の新しい技術に挑戦し、それが社会にどう役に立つかを考え様々な開発を行っています。その経験を生かし地域の勉強会で発表、高校や短大でのロボットやSilverlightなどの講座等も開催。今年度からは熊本のプログラミング勉強会の運営のサポート等も行い、実際に働いているプログラマーやデザイナーの方などとう会う機会を設けました。

プロジェクトリーダー 服部 祐一 産業工学部 機械システム工学科 4年

サブリーダー① 塚本 大祐 産業工学部 電子知能システム工学科 4年 / サブリーダー② 中村 文彦 産業工学部 電子知能システム工学科 3年

広報リーダー 松尾 信行 産業工学部 電子知能システム工学科 4年 / 会計責任者 山村 翔 産業工学研究科 情報工学専攻 2年

参加人数 43人
http://acot.ktokai-u.ac.jp/

9月5日 ・6日 「ETロボコン(Embedded Technology Software Design Robot Contest) 2009」九州大会に出場

福岡県福岡市の福岡SRPセンタービルにおいて開催された「ETソフトウェアデザインロボットコンテスト2009」に出場しました。ETロボコン2009は、日本の産業競争力向上に欠かすことのできない組込みソフトウェア技術者の人材育成の一環として行われている競技大会です。組込みシステム技術は、特定の機能を実現するために、機械や機器に組み込まれるコンピュータシステムの事を指し、デジタル家電・情報端末・自動車など、電子制御を必要とするほとんどの製品に用いられている重

要な技術です。

全国7地区で大会が行われ、全354チームが参加。本プロジェクトは60チームの参加があった九州地区大会に参戦しました。結果では惜しくも全国大会出場を逃しましたが、他チームと差別化した独特の走行に高い評価を受け、大会後の懇親会や2日目に開かれた勉強会でも多く話題に取りあげられました。走行で使用したプログラムは、熊本県内から全国大会出場が決まったチームに提供するなど、今後の発展に役立てたいとしています。



12月3日 ・10日 付属第二高等学校で技術支援を実施

本学付属第二高等学校(熊本市渡鹿)サイエンスコースの生徒を対象に、ロボット製作キットを用いた技術支援を行いました。本企画では同部門を専攻している高校生5名と担当教諭1名を、ロボットの研究資材が充実している本学熊本キャンパスに招いて、本プロジェクトメンバーと、本プロジェクトアドバイザーで本学産業工学部電子知能システム工学科中嶋卓雄准教授が指導にあたりました。高校生は光センサーと超音波センサー2分野のチームに分かれ、講習を受けました。

光センサーチームは黒い3センチのラインを、ロボットの光センサーの数を変えてトレースし、その比較検討を行いました。超音波チームは1.2×1.2メートルのコースを作り、超音波センサーを用いてロボットに壁を認識させながら壁ぎわを一周回るという実習を行いました。本プロジェクトメンバーは、ロボットの設計およびプログラムの改良を行うことによって、動作の正確性と速さを上げるための指導を行いました。



東海人カレースボートプロジェクト

清水
キャンパス

水中翼を備えた人カレースボートを製作し、全日本ソーラー・人カレースボート選手権大会及び、韓国での大会に出場し、その性能は高い評価を受けました。また全日本大会では広報・運営にも携わり、共に参加する他大学の学生や社会人、海外のチームの人々との交流を通じて学内だけでは得られない幅広い視野、価値観及び船舶技術に対する高い知見を育みました。

プロジェクトリーダー 江黒 広訓 海洋学部 船舶海洋工学科 4年

サブリーダー① 田中 龍太 海洋学部 船舶海洋工学科 4年 / サブリーダー② 内田 知宏 海洋学部 船舶海洋工学科 4年

広報リーダー 石綿 信之 海洋学部 船舶海洋工学科 4年 / 会計責任者 神田 祐一郎 海洋学部 船舶海洋工学科 4年

参加人数 20人

障害者自立支援プロジェクト

特別
プロジェクト

湘南
キャンパス

伊勢原
キャンパス

知的障害者施設「秦野精華園（神奈川県秦野市）」と協働し、パン事業に携わる障害者の自立を支援するため、商品開発や移動販売車のデザインなどを行っています。2009年度は学内販売の継続と他キャンパスでの講演とともに、障害者の現状をより深く理解するため、秦野精華園以外の施設との交流会や、同様の取り組みをしている大学への視察も実施。最終的には、大学と障害者福祉施設の協同の取り組みとしてモデル化を目指しています。

プロジェクトリーダー 高橋 信之 文学部 歴史学科日本史専攻 2年

サブリーダー① 小川 美鈴 体育学部 スポーツ・レジャー・マネジメント 2年 / サブリーダー② 平澤 美穂 体育学部 スポーツ・レジャー・マネジメント 2年

広報リーダー 平澤 美穂 体育学部 スポーツ・レジャー・マネジメント 2年 / 会計責任者 山内 貴紀 情報理工学部 経営システム工学科 3年

http://deka.challe.u-tokai.ac.jp/panderapport/ 参加人数 9人

7月22日 皆既日食観測イベントで日食パンを販売

湘南キャンパスで行われた皆既日食観測プロジェクト「湘南フォーラム」において、オリジナルパンとクッキーを販売しました。

本企画は、7月22日の皆既日食を記念して、本プロジェクト、サイエンスコミュニケーター、社会福祉法人かながわ共同会秦野精華園が協働で開発したものです。

カレー風味の生地に、ウズラの卵を包んだ「ダイヤモンドリング」、ハンバーグを包んだパンにチーズをのせた「部分日食バーグ」、ココアを使用したメロンパンの周りに白いクッキー

生地でコロナを表した「コロナメロン」、月に住むうさぎをイメージしたチョコレートクリーム入りの「ウサギちゃんパン」の4種類のパンと、欠けていく太陽をココア生地でプレーン生地で5段階に表現した「日食クッキー」の全5種類の商品を販売しました。

当日は販売開始前から長蛇の列ができ、販売開始から20分も経たずに300個の商品が完売。メンバーは今回の経験をもとにさらなる「東海大学と秦野精華園とのコラボパン」の開発に力を入れたいと述べています。



12月17日 「学生ボランティア団体助成」に採択

財団法人 学生サポートセンターの主催する平成21年度「学生ボランティア団体助成」の採択を受け、ナジックセミナーホール(東京都渋谷区)にて表彰式が行われました。

この助成は、自由な発想と行動力によって社会貢献を計画・実行している学生の団体を対象に、組織の活性化やネットワーク作りなどを経済的に支援し社会貢献活動を応援することを目的とするものです。

本プロジェクトは「社会福祉法人かながわ共同会 秦野精華園」知的障害をもつ施設利用

者のうち、製パン事業に携わる方々の給与を神奈川県最低賃金(時給766円)に到達させることを目標として、主に本学湘南キャンパス内において同施設が作るパンの販売や、地域住民と施設利用者との交流イベントなどの活動を行いました。

2009年度は春期25回、秋期17回の販売を実施、総売上、春613,520円、秋421,470円、平均55,000円の給与を達成しました。



2010年2月20日 「みんなDEラポール 精華園のお友達と遊ぼう」を実施

社会福祉法人かながわ共同会「秦野精華園」において、施設利用者と秦野市立大根小学校の4～6年生を対象に、「みんなDEラポール 精華園のお友達と遊ぼう」を実施しました。本企画は、普段触れ合う機会の少ない障害者の皆さんと地域住民、小学生が相互交流を行うことによって、障害についての理解を促し、また、障害者の方が社会と接する機会を持つことを目的としています。

準備は2009年11月下旬から行い、当日は小学生8名(うち1名が自閉症、1名が難聴を持って

いる児童)、保護者2名、利用者8名の全18名が参加しました。

イベントではクッキー作りやゲームを実施し、共同で何かを作りあげることが目的に、手にペンキを塗って、皆で木に色とりどりの葉っぱをペイントする旗作りなどを行いました。

参加した小学生の皆さんからは「楽しかった」「秦野精華園の利用者の皆さんとお友達になれてよかった」「また参加したい」といった感想をいただき、保護者の皆さんからもご好評をいただきました。



病院ボランティアプロジェクト

湘南
キャンパス

伊勢原
キャンパス

総合大学の特色を活かし、本学医学部付属病院を実践の場とした保健・医療・福祉を中心としたボランティアを展開。活動にあたっては、病院・医学部・健康科学部のほか、既存のボランティア組織と有機的に協力する体制を構築し、病院職員をサポートし、患者さんに少しでも快適に利用していただくことを目指します。具体的には、病棟でのボランティア・癒しのイベント・シンポジウムの開催等を行いました。

プロジェクトリーダー 高橋 憲 文学部 心理・社会学科 2年

サブリーダー 花光 明 文学部 北欧学科 3年

広報リーダー 石原 希美 文学部 心理・社会学科 2年 / 会計責任者 川口 仁那 法学部 法律学科 3年

参加人数 36人

6月22日

第3回セミナー
「『食』と『医』
～明日へ続く健康のために～」を開催

栄養と体に関する知識を身につけて、正しい食生活の習慣を生活に取り入れてもらおうと、川島由起子先生(聖マリアンナ医科大学病院栄養部部長)を招き、約80人を集め松前記念館講堂でセミナーを開催。毎日の食事を見直していくための「食べ方」チェックや、体のために必要な栄養をどのように摂っていけばいいのかを、具体的な例を挙げながら講演していただきました。



8月6日

第4回癒しのイベント
「あなたに届くハーモニー
～奏でよう星の歌、響け夏夜に～」を開催

本学医学部付属病院 東海ホールにて、入院されている患者さんとそのご家族約90名の方々にご参加いただき、本大学文化部連合会グリークラブの出演で開催。入院生活で外出できない患者さんに少しでも夏の風物詩を感じてもらえるよう、お祭りの水風船をイメージして作成したオリジナルうちわも配布しました。



11月28日

第4回セミナー
「カラーセラピー
～色と心の不思議なつながり～」を開催

日常生活に深くかかわっている色についての認識を深め、心と体の健康に役立てようと、講師に鶴岡理保子さん(カラー&サイコセラピスト)を招き、約80人を集めセミナーを開催。色の持つ心理的・生理的な効果などについて講演。後半では、色鉛筆やカラーボトルを使いながら「色」を感じたり、自分にとって「心地よい色」を知るワークショップを行いました。



12月24日

イベント
「クリスマスマジック
～あなたに届くわくわく～」を開催

神奈川病院(神奈川県秦野市)にて、入院されている患者さんを対象に、伊勢原市文化団体連盟に所属の伊勢原奇術愛好会のご協力のもと、マジックショーを開催しました。当日は約30名の患者さんとそのご家族、入院している子どもさんが集まりました。同プロジェクトが本学医学部付属病院(伊勢原市)以外で初めて開催したイベントでもありました。



12月25日

第5回癒しのイベント
「Happy X'mas
～みんなで歌おう 星降る夜に～」を開催

本学医学部付属病院に入院の患者さんとそのご家族を対象に、癒しのイベントを開催。65名が集まり、教養学部芸術学科音楽学課程音楽療法コースの学生と本プロジェクトメンバーが合奏・合唱などを披露。患者さんから、「入院も悪いことばかりではない思い出になりそうです。」「今回は病気に勝てる気がしました。」といった感謝の言葉をいただきました。



2010年 1月31日・2月3日

小児科季節のイベント
「節分」を実施

本学医学部付属病院に入院中の患者さんとそのご家族を対象に、節分のイベントを実施。節分の起源についての話をしたり、一緒に歌って楽しみました。また、本プロジェクトメンバーと看護師さんが鬼に扮し、紙を丸めた手作りの豆で鬼退治をしました。両日合わせて約30名が参加し、「病院が明るくなった」「また来てね」といった言葉をいただきました。



障がい学生支援プロジェクト



「障がいを持つ学生も持たない学生も、みんなでキャンパスライフを楽しもう!」をモットーに、様々な活動の中から、視覚・聴覚・肢体不自由の3障がいについての活きた知識を学び、様々な交流を生んでいます。障がいを持つ持たないに関わらず、みんなが楽しく大学生活を送るために必要なこと。そのことを一緒に考え、一緒に活動しながらメンバーと団体が共に成長していく。学ぶだけではなく、多くの仲間とその周りの人たちが笑顔に溢れる大学生活を目指して活動しました。

プロジェクトリーダー 細川 隼 政治経済学部 政治学科 2年

サブリーダー 古谷 典子 文学部 北欧学科 3年

広報リーダー 倉嶋 直也 理学部 物理学科 1年 / 会計責任者 境 貢太郎 文学部 心理・社会学科 2年

参加人数 30人

<http://deka.challe.u-tokai.ac.jp/dssp/>

11月30日・12月10日 ノートテイク・パソコンテイク講習会を実施

本学学生・教職員、テイク利用学生(聴覚障がいを持つ学生)を対象として、聴覚の障がい学生に授業内容を伝える手法であるノートテイクおよびパソコンテイクの講習会を湘南キャンパスで開催しました。

11月30日(月)のノートテイク講習会では、実践的な技術を身につけるため、本学健康科学部社会福祉学科岩田香織講師による模擬授業を行いながら、「略語」や「環境音(授業中のチャイムや携帯電話の音など)」、状況の伝え方について要約筆記サークル「やまびこ」

によるスキルアップの説明がなされました。

12月10日(木)に行われたパソコンテイク講習会では、「環境音」「文字の大きさ」「テイクが追いつかない時の対処と表記方法」の技術習得を目指した講習を実施。また、情報保障ソフト「IPtalk」の使用講座も行いました。この日は本プロジェクトアドバイザーで健康科学部社会福祉学科北野庸子教授が模擬授業を担当し、パソコンテイク(参加者)と、テイク利用学生のコミュニケーションに重点を置いて進められました。



2010年2月4日 福祉系3プロジェクトが合同勉強会を開催

障がい学生支援プロジェクト、病院ボランティアプロジェクト、障害者自立支援プロジェクトが2009年度の活動を振り返り、今後の活動の発展に役立てることを目的とし、第一回合同勉強会『プロジェクト活動にとって大切なことは?』を湘南キャンパスで開催しました。当日は28名が参加。障がい学習支援プロジェクトは聴覚障害の方々への支援と障がいを持った学生からの生の声などの発表、病院ボランティアプロジェクトは病院内でのイベントとボランティアの体験談、障害者自立支援プ

ロジェクトは知的障害者に関する発表や他県で行われている障害者自立支援活動を行い、その後にディスカッションを行いました。参加した学生からは、「他プロジェクトについてだけでなく、自分のプロジェクトにどう繋がられるかといった部分まで考えるきっかけとなった」「自分の所属しているプロジェクトを改めて理解できた。とてもプラスになった」「視野も広がり、向上心が湧き、刺激された。また参加したい」といった、多くの意見が寄せられました。



木工制作でおこなう社会貢献プロジェクト



8月9日と23日、滝川市で開催された「そらぶちキッズサマーレキャン」で、ワークショップを実施しました。これは難病と戦っている子どもたちのための自然体験施設の建設を目指して活動している(財)そらぶちキッズキャンプが運営しているもので、本プロジェクトは昨年からの取り組みに協力しています。当日は「短時間で安全に作ることができる木工製品」をテーマに、マラカスなどの楽器や写真立てのキット等を子どもたちと一緒に製作しました。学生たちは、その表現力や自由な発想に驚きながらサポート。最後には、子どもたち手製の楽器を使って歌を楽しみました。



プロジェクトリーダー 浅田 知実 芸術工学部 くらしデザイン学科 3年

サブリーダー① 三浦 百花 芸術工学部 くらしデザイン学科 3年 / サブリーダー② 佐藤 大輔 芸術工学部 くらしデザイン学科 3年

広報リーダー 小倉 佑太 芸術工学部 くらしデザイン学科 4年 / 会計責任者 荻野 美加 芸術工学部 くらしデザイン学科 3年

参加人数 31人

福祉除雪プロジェクト



札幌市南区南沢・中ノ沢・北の沢・藻岩地区の①70歳以上の方だけで構成されている世帯、②重度の身体障害者のある方だけで構成されている世帯、③70歳以上の方と重度の身体障害者のある方だけで構成されている世帯、④本プロジェクトが特に認めた世帯の除雪・屋根の雪降しを行っています。その年の降雪量によっても多少の違いは出てきますが、基本的には、11月～3月が除雪を実施する期間とし、対象世帯のニーズに対応できるプロジェクト活動を行いました。

プロジェクトリーダー 池田 翔 国際文化学部 国際コミュニケーション学科 3年

サブリーダー① 上田 貴大 生物理工学部 海洋生物科学科 3年 / サブリーダー② 林 信太郎 国際文化学部 地域創造学科 3年

広報リーダー 佐藤 亮佑 国際文化学部 国際コミュニケーション学科 3年 / 会計責任者 吉田 愛美 国際文化学部 国際コミュニケーション学科 3年

参加人数 55人

9月16日 地域の災害時避難訓練に参加

2009年度は冬の除雪時以外にも高齢者が住んでいる住宅の庭の整備や、住宅内にある重い家財の運搬などのボランティア活動を実施。今回は札幌市内の南警察署から「老人ホームを対象とした災害発生時の避難訓練」への協力要請をいただき、メンバー6人が、札幌市南区の福祉施設「宏楽苑」で行われた災害時避難訓練に参加しました。

当日は、土石流が発生して老人ホームの出入り口が埋まり、避難できない状態を想定した訓練が行われました。学生たちは警察署からの連絡を受けて現場の宏楽苑に出発。車いすに座った入所者を避難場所まで搬送する訓練をしました。学生たちは「あらためて支援活動の大切さが分かりました。今後でもできる限り協力していきたい」と語っていました。



12月7日 札幌市南区役所で出陣報告

札幌市南区役所を訪問し、2009年度の出陣の報告を行いました。区役所へは参加学生の代表6人が訪問し、筑田清貴区長に活動内容を説明。筑田区長から「南区内には高齢者住宅が多く、大変助かっています。学生さんたちの活躍に大いに期待しています」と激励の言葉をいただきました。



12月21日 今季初の除雪活動に出動

札幌に大雪が降った12月21日(月)に今季初出動。今年で2年目となる本プロジェクトは、札幌キャンパス近隣の南区藻岩地区と南沢地区で、高齢者など自力で除雪が困難な世帯から希望を募り、これまで各世帯と事前打合せを行うなどして準備を進めてきました。プロジェクト参加メンバー52名のうち、初日は15名が集まり6世帯の除雪を行いました。

メンバーたちは玄関先や通路はもちろん、1メートル以上積み上げられた雪の除雪を、汗を流しながら行いました。きれいに片づけられた雪を見て、依頼主からは「本当に助かります」とのコメントをいただきました。プロジェクトリーダーの池田翔さんは「感謝の言葉をいただけることが嬉しい。これからも地域の役に立てよう頑張りたい」と話していました。



高齢者いきいきプロジェクト



2008年度、神奈川県大和市と協働し、現在の健康状態を楽しみながら維持・促進するため、高齢者を対象とした東海大学オリジナル健康体操を制作し、大和市を中心に普及活動を行いました。2009年度は、2010年1月10日に開催されたスポーツ社会貢献プロジェクト主催の「第2回東海スポーツ教室DAY」においてノルディックウォーキング企画とコラボレーションし、健康に関するクイズなどとともに、オリジナル健康体操を紹介しました。

プロジェクトリーダー 飯沼 克昌 体育学部 スポーツレジャーマネジメント学科 3年

サブリーダー 戸越 麻 体育学部 生涯スポーツ学科 3年

広報リーダー 徳永 潤 教養学部 人間環境学科社会環境課程 3年

会計責任者 佐藤 裕美 体育学部 スポーツレジャーマネジメント学科 2年

参加人数 6人

キャンパス ストリートプロジェクト(C.A.P.)

湘南
キャンパス

キャンパスストリートプロジェクト(C.A.P.)は、「この街一緒に盛り上げない?」を活動理念とし、湘南キャンパスを中心とした周辺地域の市民および行政等とコミュニケーションを通じて、東海大学周辺地域の「地域の活性化」を目指して活動しているプロジェクトです。具体的な活動としては、地域密着型のイベントの企画・運営、フリーペーパーの発行、ビーチハウスの建設・運営などに取り組みました。

プロジェクトリーダー 下田 奈祐 工学部 建築学科 2年 / サプリダー① 西田 智之 政治経済学部 経済学科 2年
サプリダー② 越野 裕佳子 文学部 ヨーロッパ文明 3年 / サプリダー③ 親松 直輝 工学部 建築学科 4年 / サプリダー④ 瀬谷 匠 工学部 建築学科 4年
広報リーダー 山内 昇 工学部 建築学科 2年 / 会計責任者 澤井 将 法学部 法律学科 4年

参加人数 53人
http://deka.challe.u-tokai.ac.jp/cap/

6月23日 ～26日 | 「TOKAI音食WEEK」を開催

湘南キャンパスの噴水周辺に特設会場を設置して、イベント「TOKAI音食WEEK」を開催しました。これは、学生、教職員、地域住民の有志によるライブパフォーマンス<音>と、湘南キャンパス近隣の飲食店が出品する<食>を融合させた地域交流イベントです。C.A.P.の2009年度テーマである「交流の輪の創造」を、<音>と<食>の“出会いの場”として形にしたもので、本学学生と地域の皆様との交流を深めて街の魅力と価値を共有し、湘南キャンパス周辺をさらに盛り上げていくことを目的としています。4回目を迎えた今年は「イベントの質の向上」を目標に、ライブパフォーマンスに出演する団体の事前公募や、来場者へのアンケートを新たに実施しました。

期間中は近隣の住民も多数訪れ、ライブやダンスパフォーマンスを楽しんだり、クレープや和菓子などの屋台に並んだり、イベントを満喫する姿が見られました。来場者アンケートには「地域と大学が交流できるいい機会」「ここで知ったお店に行くことができる」「大学と地域の絆が深まる」などの声が寄せられ、出店した店舗の皆さんからは「学生と交流を図る機会が持ててよかった」「大学内の販売だけでなく、自分たちに協力できることがあればぜひ言ってほしい」といったご意見をいただきました。さらに「本イベントが地域活性化に貢献しているか」という質問に対し、88%の来場者が「貢献している」と回答しました。



8月5日 ～31日 | 学生手作りの「ビーチハウス」が平塚海岸にオープン

神奈川県・湘南の平塚海岸にビーチハウスを建設しました。3年目を迎えた2009年は、「昔ながらの縁側が、室内と庭をつなぐ中間領域として多様な生活風景を作ってきたように、ビーチハウスを平塚海岸と街とを結び付ける存在にしたい」という学生らの思いを込め、「海のえんがわ」をメインコンセプトに設定。「海のシルエット」を建築コンセプトに、暑い砂浜でも快適に過ごせるよう、日陰を生かした横長のフラットなデザインのビーチハウスを建築しました。8月5日の竣工式では、平塚市の大蔵律子市長、本学の田中康夫副学長、チャレンジセンターの大塚滋所長、工学部建築学科の杉本洋文教授ら、多数の関係者が出席しました。大蔵

市長からは、「若い建築家ならではの感性が光る、すてきなビーチハウスだと思います。この場所を活用して、学生の皆さんの斬新な発想を市民の方々に向けて積極的に発信していただけることを願っています」と、激励の言葉が贈られました。期間中は、学生による作品展やビーチチェア作り、多摩美術大学と協働しての“ビーチで読む”絵本づくりなど、様々な市民参加型イベントが催されました。



10月24日 | おおね夜市～東海大学建学祭PRESTAGE★～を開催

本企画は秦野市大根地区で伝統的に行われてきた夜市と、本学建学祭の前夜祭がコラボレーションし『交流の続くイベント創り』を目標として実施したものです。東海大学前駅の駅前広場に特設ステージを設置し、本学建学祭に出演する音楽団体によるステージパフォーマンスや、地域の店舗による出店が行われました。当日は雨天にも関わらず、約1500人以上の方々が来場。新企画として、イベントに関わったすべての人と今回の交流を形として残すことを目的として、参加団体と来場者から「この街のよいところ」についてメッセージを記入してもらう「メッセージフラッグ」を実施しました。フラッグには「学生さんが多く町も活気があります」「夕方の夕日がめっちゃくちゃキレイで大好きです」

「学生と地域の交流がさかんな所!」といった沢山のコメントが綴られました。フラッグはイベントの終盤にステージ上で披露したほか、11月1日～4日にかけて行われた本学の建学祭においても展示しました。アンケート調査では『本学建学祭に行きたいと思いますか?』という質問に88%の『行きたい』という回答が、『地域の商店街を利用したいと思いましたか?』という質問に78%の『思う』という回答が得られました。また、「学生の演奏が楽しくて良いですね」「学生と地域のお店の交流が増えることで双方のメリットも多いと思います」「地元の発展にもつながるので、イベントをもっと開いてほしいです」といった激励の声も寄せられました。



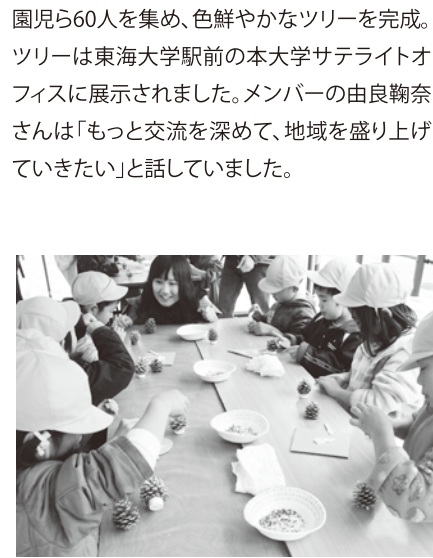
10月19日・ 2010年3月23日 | 「ThLive! vol.10／vol.11」を発行

湘南キャンパス内、地域商店街で配布しているフリーペーパー「ThLive! (スライブ) vol.10」を10月19日に、「vol.11」を2010年3月23日に発行しました。「ThLive!」は、「thrive=繁栄する・栄える」と「live=住む」を合わせた造語で、毎号、本学のプロジェクト活動がわかる「Project News」、本学やご近所周りのことがわかる「Univ.&Neighbors」、そしてお役立ち情報満載の「Under your hands」など、さまざまな情報を発信しています。「vol.10」は「この街の魅力へDIVE!しよう!!」、



12月3日 ～25日 | 「クリスマスU-night」開催

本企画は、「地域と創るクリスマス」をテーマに、地元商店会の協力を受けて開催されたもので、湘南キャンパスのシンボルである1号館の鉄塔をライトアップするとともに、地域の拠点である東海大学前駅の広場にクリスマスツリーとクリスマスまでのカウントダウンカレンダーを設置。さらに「地域と大学を繋ぐ」というメッセージのもと、駅から東海大学までのキャンパスストリートに街灯フラッグを展開し、クリスマスを彩りました。また、「地域密着型イベント創り」をコンセプトに、地域の皆さんと本学学生とのワークショップ「松ぼっくりツリー作り」に挑戦。これはカラフルな松ぼっくりにビーズなどで飾りつけをして、一つの大きなツリーを作りあげるもので、



スポーツ社会貢献プロジェクト



「スポーツで広げよう新しいWA」大学と地域を結ぶという活動テーマで、スポーツを通じて地域と大学を繋げるイベントを企画しています。具体的には、湘南キャンパス近隣の小・中学生を対象にした東海スポーツ教室の開催、保護者や社会人を対象とした講演会、その他、シーズン別、対象者別に各種イベントの企画・開催を行いました。

プロジェクトリーダー 飯沼 克昌 体育学部 スポーツレジャーマネジメント学科 3年
サブリーダー① 富田 奈央子 体育学部 スポーツレジャーマネジメント学科 / サブリーダー② 戸越 慶 体育学部 生涯スポーツ学科 3年
広報リーダー 徳永 潤 教養学部 人間環境学科社会環境課程 3年 / 会計責任者 佐藤 裕美 体育学部 スポーツレジャーマネジメント学科 2年
参加人数 52人

7月5日 「ゼロからはじめるスポーツ体験教室」を開催

7月5日に湘南キャンパスのアメリカンフットボール場、総合体育館で「ゼロからはじめるスポーツ体験教室」を開催し、平塚市、伊勢原市の小学生とその保護者約40人が参加しました。これは、学校の体育では経験することが無い種目を小学生や保護者に体験してもらい、スポーツの楽しさや、その競技についての興味・関心を持っていただくとう企画したものです。

当日は、本学体育会のアメリカンフットボール部、フィールドホッケー部(男子・女子)、ハンドボール部(女子)の各部員が、参加者に基本的な動きの練習やミニゲームといったプログラムを展開しました。参加した子どもたちは、疲れも見せずに、全ての競技に笑顔

で取り組んでいました。

この企画に協力したフィールドホッケー部男子監督の臼井伸一さん(本学職員)は「地域の子どもたちに自分たちの競技を体験してもらい、それを指導することは、部員にとっても色々な刺激となり良い経験になる」と述べています。

また、プロジェクトリーダーの飯沼克昌さんは「梅雨の時期でもあり、天候を心配しましたが、無事に開催できて良かったです。そして、今後もスポーツを通じて人の輪を広げていきたい」と述べています。

同プロジェクトでは今後もスポーツを通じて地域、社会へ貢献していきたいとしています。



2010年 1月10日・17日 「第2回東海スポーツ教室DAY」を開催

今回は「子どもたちに夢を。」がテーマ。湘南キャンパスの男子バスケットボール部、サッカー部、女子体操部、陸上競技部短距離ブロック、硬式テニス部、水泳部、女子バレーボール部、柔道部、硬式野球部、さらに清水キャンパスの男子バスケットボール部の協力を得て湘南キャンパスと三保第三小学校(静岡県)でスポーツ教室を行い、2日間で500人を超える小・中学生が参加しました(三保第三小学校は17日のみ)。また2009年は、ノルディックウォーキング講師の藤本豊久氏と木崎秀臣氏によるセミナー「健康増進プロジェクト」や、硬式野球部の横井人輝監督による「球児の親として」と題したトークショー、各プロジェクトによる展示イベントなども初めて開催。

スポーツ教室に参加した子どもたちは、大学のトップレベルのプレーに驚きの声をあげ、1つひとつの練習に真剣に取り組んでいました。保護者からは「学生の皆さんが友達感覚で子どもと接してくれて、とても雰囲気の良い教室でした。テレビで見たことのある選手たちも同じように練習しているというのは、子どもにとってすごく説得力がある。いい勉強になったはず」と話していました。

プロジェクトリーダーの飯沼克昌さんは「子どもたちに、スポーツ教室はもちろんチャレンジプロジェクトの展示などいろいろなものに触れてもらうことで、夢を持つきっかけを作りたいと思って企画しました。楽しんでもらえて良かったです」と話していました。



ビーチライフ創生プロジェクト



横浜市金沢区「海の公園」にて、地域の資産であるビーチとの新しいかわり方を創出しています。2008年度は、金沢らしく秋らしいビーチライフとして、「砂浜の図書館」を建設し、8企画の市民参加型イベントを開催、2009年度は海の公園の既存施設を借用し、「砂浜の図書館」を再び開館。金沢らしく秋らしいビーチの楽しみ方として、本や読書を基軸とした、市民参加型イベントを開催しました。

プロジェクトリーダー 高市 慎太郎 政治経済学部 政治学科 2年
サブリーダー① 吉村 孝平 政治経済学部 経営学科 3年 / サブリーダー② 原島 誠 政治経済学部 経済学科 3年
広報リーダー 森 隼人 法学部 法律学科 4年 / 会計責任者 大久保 翔太 工学部 建築学科 2年
参加人数 8人

9月20日・21日 10月4日 「砂浜の図書館」を開設

横浜市金沢区の「海の公園」にて「砂浜の図書館」を開設しました。本企画は「秋＝読書」「金沢らしさ＝金沢文庫」というキーワードから「秋のビーチの楽しみ方」として閲覧用の本とライムボードチェア、ライムチェア、ハンモックを設置し、海の公園を訪れた方々が自由に本を読める環境を用意したものです。

また、特別プログラムとして、9月20日(日)には多摩美術大学絵本創作研究会と本学北欧学科絵本読み聞かせサークルFINDSの協力で、市民参加型のイベント「絵本作り体験」と、大判の画用紙に自由に絵を描いてもらう「ライブペインティング」、北欧の絵本を翻訳し、原書の北欧語と日本語で読み聞かせを行うイベントを実施。絵本作りには多くの親子連れが

訪れ、用意されていた白絵本は全てなくなるほど盛況で、読み聞かせには各回30人前後の人たちが集まりました。

10月4日(日)は、社会人が中心になって構成されている怪談サークル「とうもろこしの会」の協力で、中秋の名月のもと、「月見怪談」を行いました。怪談師の皆様の語りは鬼気迫るものがあり、お集まりいただいた約50名の参加者の皆さんは、真剣に耳を傾けていました。また、終了後に行ったすすきの配布も大変好評でした。

イベントには一人でのんびり散歩がてらに立ち寄られた方や、ピクニックに訪れた家族連れの皆様など、3日間を通しておよそ500名ほどの来訪があり、秋のビーチを楽しんで過ごされていました。



人と人をつなぐまち沼津

沼津
キャンパス

豊かな自然環境に恵まれている沼津キャンパスの、利便性のマイナス要因を改善するため、地域との交流を目的として、坂を利用した「流しそうめん」、子どもたちとの交流を図る「エコツアー」といった計画の立案・実行をすすめました。

プロジェクトリーダー	榎林 正廣	開発工学部	感性デザイン学科	3年	
サブリーダー①	小林 章太	開発工学部	感性デザイン学科	3年	
サブリーダー②	小林 亮	開発工学部	感性デザイン学科	3年	
広報リーダー	鈴木 あすか	開発工学部	感性デザイン学科	3年	
会計責任者	田口 いづみ	開発工学部	感性デザイン学科	3年	参加人数 35人

8月7日

「ニコニコふれあいツアー」を実施

今回は、好評を博した前回に続いて2回目の開催となり、地域の小学生31人と本プロジェクトの学生35人が参加しました。沼津校舎内の緑地公園で、虫捕りや虫に関するクイズ、流しそうめん、ペットボトルでのロケット作り行なうなどを行い、楽しみながら動物の生態や環境問題について学ぶ一日となりました。当日捕った虫は持ち帰らず公園内に放しました。



11月3日

建学祭において電柱アート完成式を実施

本企画は、学坂を、ギャラリーロードとして楽しみながら沼津の地域性に触れてもらうと共に、大学と地域の方々との親交を深めることを目的として、電柱に沼津の風景や特産品をテーマとしたグラフィックを施したもので、本プロジェクトメンバー27人が制作。完成式では快晴に恵まれたなか、メンバーからそれぞれの電柱アートについて解説がなされました。



隔月発行

フリーペーパー「がくせい学」を発行

「がくせい学」は、日本大学、沼津工業高等専門学校との学生たちと制作している小冊子で、沼津市と三島市周辺のグルメ・イベント情報などを紹介。創刊から1周年がたち、学生が作った情報誌としてさらにわかりやすいものにしようと、誌名を「あっ!」から改め、デザインも一新。発行日も月刊から隔月へと変更されました。



阿蘇援農コミュニティプロジェクト

阿蘇
キャンパス

日本農業・地域農業の現状・実態を学ぶために、大学周辺の農家を訪ね、農作業などを手伝いながら農村・農家の知恵や技術を習得。農家の方が抱えている様々な問題に向き合い、農家だけでは改善が困難な問題を一緒に考えていきました。

プロジェクトリーダー	古賀 郁	農学部	応用動物科学科	2年	
サブリーダー①	齋竹 孝昌	農学部	応用動物科学科	2年	
サブリーダー②	岩原 真利	農学部	応用動物科学科	2年	
広報リーダー	竹田 直樹	農学部	応用動物科学科	2年	
会計責任者	井下 知也	農学部	バイオサイエンス学科	2年	参加人数 20人

8月 3日
～9月13日

夏の援農活動を実施

熊本県産山村、南阿蘇村、阿蘇市において、主にほうれん草・アスパラ・トマトの収穫、花の移植、イチゴの手入れ、酪農作業などを手伝う援農活動を実施しました。

活動と同時に各受け入れ先の農家を対象にアンケート調査も実施。「梅雨が長引いた影響

で、今年は作物が駄目になってしまったり、収穫が遅れた」などの声がありました。メンバーは、実際にこのような現場で作業にあたり、考えていた以上に変な作業を通して、農業についての理解を深めることができ、勉強になったと話しています。



12月24日
～27日

冬の援農活動を実施

2009年で2年目となる本活動は、夏に加えて冬にも実施することで、後継者不足や高齢化で労働力を必要としている農家に対して、年間を通してサポートを提供。今回は14名が参加しました。作業はアスパラガスハウスのビニール貼り替え、ハウス内の除草、ベビーリーフの

収穫など。ビニールハウスは長さ50m程のものが12棟あり、寒さの中での作業は厳しいものでしたが、十数人で取りかかったこともあり短時間で終了させることができました。農家の皆さんからは「来てくれて本当に助かった」と感謝のお言葉をいただきました。



LINK THE LOCAL

熊本
キャンパス

大学と地域がもっと密接につながることを目的として、学生と地域の方が連携して行う、ものづくりやリサイクル等の体験教室、地域の方へのアンケートを反映した防犯マップの作成等を実施しました。

プロジェクトリーダー	佐藤 真一郎	産業工学部	建築学科	4年	
サブリーダー①	川本 郁弥	産業工学部	建築学科	4年	
サブリーダー②	伴 聖佑	産業工学部	建築学科	4年	
広報リーダー	野中 陽輔	産業工学部	建築学科	4年	
会計責任者	若本 崇	産業工学部	建築学科	4年	参加人数 31人

9月12日

「ものづくり工房」を開催

熊本キャンパス新1号館前にて開催された本イベントでは、近隣の高校生、崇城大学と熊本県立大学の学生、地域の皆様を招きモニュメントの設置と椅子作り、流しそうめんの昼食会を行いました。モニュメントは、地域の高齢化に伴い、竹林が放置され問題となっていることに着目し、この竹を



2010年 3月25日

「熊本市西原地区防犯マップ（ひやりはっとマップ）」制作

以前使われていた防犯マップは、町並みが変わって分りづらく、小学生向けではなかったため、実際に町を歩くイベントに参加。ヒヤリング調査をすることで小学生の目線にたって住民（西原小PTA）と学生で意見を出し合い完成しました。このマップは2010年4月から熊本市西原地区の住民に配布されます。



肥後のたまもの【農作物仲介サイト運営】

熊本
キャンパス

大学発・地域ブランド『肥後のたまもの』という農作物ブランドを結成し、本学モニター農家の活動や生產品などを紹介。活動の範囲を大学内だけに限らず、熊本県内の農業・観光を活性化することを目標に活動しました。

プロジェクトリーダー	上尾 篤史	総合経営学部	マネージメント学科	3年 / サブリーダー①	
澤井 真琴	総合経営学部	マネージメント学科	3年 / サブリーダー②	白井 大司	総合経営学部
マネージメント学科	3年 / 広報リーダー	山田 紗也佳	総合経営学部	マネージメント学科	3年
／会計責任者	江藤 薫	総合経営学部	マネージメント学科	3年	参加人数29人
http://www2.ktokai-u.ac.jp/~tamamono/					

6月14日

モニター農家生産物の試食会を開催

農学部と提携し、共同研究などを行うモニター農家の「活動紹介サイト」「生産物販売サイト」の構築・運営・保守といった活動を展開している「肥後のたまもの」が、販売商品の試食展示会を熊本校舎で開催。これは同日に行われた「総合経営学部フェスタ」に参加したもので、今回の出店では、フェスタの参加者にサイトをアピールしようと、サイト上で販売している熊本名産の貴味メロンの試食を提供しました。サブリーダーの白井大詞さんは「モニター農家の皆さんが丹精込めて作った作物の魅力を知ってもらえたら」と語っていました。

12月1日

「学生発ベンチャー・夢挑戦ビジネス大賞2009 in くまもと」奨励賞受賞

第一回目の今回は合計14件の応募があり、一次書類審査をパスした13件について11月6日（金）、熊本県庁AV会議室においてプレゼンテーション審査を行い、大賞1件、優秀賞1、奨励賞6件を決定。「肥後のたまもの」は奨励賞に選ばれ、熊本県庁にて、蒲島都夫県知事から表彰を受けま

した。参加したメンバーは、「今回のプレゼンで、審査員の方々から、貴重なアドバイスをいただき、とても良い機会でした。」「多くの方に支持されている活動だと、再認識しました。本活動が、盛り上がるように、がまだします!!（頑張ります）」と語っています。



日本縦断キャラバン隊 (環境キャラバン隊)

特別
プロジェクト

湘南
キャンパス

バイオ燃料(天ぷら油)で走行できる「エコ・カー」に改造したバスを使って、小学校・高等学校での環境教育を中心に、「地球環境問題(主に地球温暖化防止)」をテーマとした環境問題の啓発活動を行っています。夏期休暇を利用して「日本縦断(九州→神奈川)」を実施。ボランティア活動を中心に、各地で様々なイベントを開催。また、バイオ燃料の製造、それが使えるディーゼル発電機を利用した環境イベント等も実施しました。

プロジェクトリーダー 井下 元 教養学部 人間環境学科自然環境課程 2年
サブリーダー① 星川 旭 政治経済学部 政治学科 2年 / サブリーダー② 北村 由紀恵 教養学部 人間環境学科自然環境課程 2年
広報リーダー 北村 由紀恵 教養学部 人間環境学科自然環境課程 2年 / 会計責任者 岩堀 加奈 人間環境学科自然環境課程 2年

参加人数 13人
<http://www.u-tokai.ac.jp/challenge/caravan/index.html>

3月31日 ヤンマー株式会社よりバイオディーゼル燃料試験用エンジンが寄贈

ヤンマー株式会社は、かねてより資源循環型社会の形成に向けた様々な取り組みの一環として、教育機関を中心にバイオディーゼル燃料のテスト用エンジンを寄贈されており、本年度は公募の中から日本縦断キャラバン隊が寄贈先として選定され、贈呈式を執り行いました。贈呈式にはヤンマー株式会社 環境事業開発部バイオソリューションシステム部専任部長 青木義則様と、ブランドマネジメント部ブランドグループ上田弘二様ご出席のもと、ものづくり館前にてバイオディーゼル燃料試験用

エンジン「L48V6 M-1」をご恵贈いただきました。本学技術職員と学生が協働し、バイオディーゼル燃料(BDF)と廃食用油(SVO)の両方で走行できるよう改造したマイクロバス「天ちゃん号」を前に、日本縦断キャラバン隊のメンバーは、ヤンマー株式会社様への感謝の意をお伝えすると共に、環境教育活動への熱意を新たにしました。いただいたエンジンは、小学校で実施する環境教室にて、バイオ燃料の作成工程を実演する際に利用しています。



6月21日 環境番組「SAVE THE FUTURE2009」に参加・出演

環境問題をテーマにしたNHKのTV番組「SAVE THE FUTURE2009」の中でライトパワープロジェクトが展示を行ない、21日に放送された「@キャンパス・エコスペシャル」に日本縦断キャラバン隊が出演しました。「@キャンパス・エコスペシャル」では、全国でユニークなエコ活動を行っている大学サークルや団体を生放送で紹介し、本学からは日本縦断キャラバン隊代表者4名が出演。日本各地から集った学生たちと共に環境活動をアピールしました。



9月14日 「コカ・コーラ環境教育賞」を受賞

「第16回コカ・コーラ環境教育賞」(主催＝財団法人コカ・コーラ教育・環境財団、協力＝読売新聞社、後援＝文部科学省、環境省)の次世代支援部門で優秀賞を受賞しました。コカ・コーラ環境教育賞は、環境ボランティア活動の助成・支援を通して、環境教育・環境保全活動を促進することを目的に、1994年に創設されました。以来15年にわたり、環境教育に関する活動が顕著である団体・個人を顕彰しています。2009年より、小中学生を対象にした地域社会の環境教育に関する活動実績を顕

彰する「活動表彰部門」と、高校生および大学生による環境保全・環境啓発に寄与する新しい企画を支援する「次世代支援部門」の2部門制へと発展しました。リーダーの井下元さんは、「自分たちの活動が評価され、優秀賞を受賞できたことで、自信につながりました。今後は、北海道や東北を巡るルートも計画したい」と抱負を語りました。



12月26日 27日 「第7回全国大学生環境活動コンテスト(ecocon2009)」に出場

大学生の社会への影響力を高め、持続可能な社会をはじめとしたよりよい社会の実現を目指し、立正大学大崎キャンパスにおいて、「第7回ecocon2009」が開催されました。コンテストでは、環境に関する様々な分野で活躍中の社会人・全国の学生・見学者による公開選考を通じ、学生の環境活動を多角的に評価・表彰します。参加団体は、エココンを通じて団体の活動や自分自身のあり方を見つめなおし、新たな行動のヒントをつかむことができます。コンテスト以外にも、エココン当日は分科会(エコット)や全国の環境活動を集めた展示コーナー、参加者同士の交流の機会(エコット)の場があります。また、通年の企画として、インターネットを通じた情報発信(ここエコや

ここトモ)もあわせて行われています。今年は58の参加団体が8つのグループに分かれ、各部屋でグループ選考を行いました。このグループ選考を突破した8組が、最終選考に進めるということで、どのチームもとても気合いが入っていました。5分間のプレゼンテーションの後、全体討議を行い、各団体の活動についての質疑応答がなされました。日本縦断キャラバン隊は最終選考の8組に残り入賞。グランプリは逃しましたが「数時間にも及ぶ討論から、発表、投票までの中でとても大きなものをたくさん得ることができた」と、参加メンバーは語りました。



8月24日 ~9月4日 夏期キャラバンで全国行脚

日本縦断キャラバン隊が、エコバス「天ちゃん号」で福岡県・熊本県・大分県・高知県・岡山県・滋賀県・長野県・山梨県の8県(保育園1・小学校6・高校2)を訪問し、環境に関するイベントを実施しました。移動に利用したエコバス「天ちゃん号」は、本学所有のマイクロバスを、使用済み天ぷら油などを使用した廃食用油(SVO)やバイオディーゼル燃料(BDF)で走行出来るように本プロジェクトメンバーが改良したものです。伴走車はエコバスと同様バイオディーゼル燃料で走行するもので、横浜市磯子区の高栄企業株式会社からご提供いただきました。参加メンバーは学生19名、コーディネーター1名。各地では「身近な環境問題を伝えるをテー

マに、小中学校・高校を訪ね、本プロジェクトメンバー制作・出演の環境劇「エコレンジャーショー」やバスの試乗、天ぷら油のろ過実演、クイズなどを盛り込んだ、楽しみながら学べる環境教室を開催。また、地域住民を対象とした環境イベントを実施し、地球温暖化を中心とした環境問題に対する理解促進と、身近なエコを日常に取り入れてもらうための啓蒙活動もおこないました。湘南キャンパスへの無事の到着を祝し、センターではセレモニーを開催。参加メンバーからは「活動はこの夏の旅だけではないのでこれからもエコの気持ちを広められるよう頑張っていきたいです。」と新たな思いが語られました。



2010年 2月24日~26日 春期キャラバンに出発

日本縦断キャラバン隊が、2月24日(水)~26日(金)に、「天ちゃん号」で愛知県と静岡県で環境活動を実施する春期キャラバンに出発。今回の訪問では、株式会社アビツ(愛知県名古屋市中区)、コカ・コーラセントラルジャパン東海工場(愛知県東海市)に赴き、環境についての勉強会を行いました。また、秦梨小学校(愛知県岡崎市)と本学付属小学校(静岡県静岡市)において、小学4~6年生を対象に、本プロジェクトメンバー制作・出演の環境劇「エコレンジャーショー」やエコバスの試乗、天ぷら油のろ過実演、クイズなどを盛り込んだ、楽しみながら学べる環境教室を開催。参加したメンバーは学生19名、コーディネーター1名。



Green Communications

湘南
キャンパス

「環心の芽(環境に対する興味・関心のこと。造語)を育むと同時に一人ひとりの人間関係にも緑を育てる」という理念のもと、清掃活動、自然農法での野菜栽培、打ち水、環境問題シンポジウム等の企画を実施しました。

プロジェクトリーダー	北澤 沙那恵	教養学部 人間環境学科/自然環境課程	2年	
サブリーダー①	井出 航平	政治経済学部 政治学科	2年	
サブリーダー②	内田 彩香	教養学部 人間環境学科/自然環境課程	2年	
広報リーダー	一色 裕也	情報理工学部 ソフトウェア開発工学科	3年	参加人数
会計責任者	一色 裕也	情報理工学部 ソフトウェア開発工学科	3年	42人

8月1日・31日 | 湘南キャンパスで「打ち水」を実施

今年で4回目の「Mission in 打ち水 2009」を開催しました。打ち水は江戸時代から行われてきた日本の夏の風物詩であり、水の気化熱を利用して涼を得ます。本企画では、本学でグラウンドに散水されている飲めない井戸水を利用。打ち水を通して地域の皆様と子どもたち

ち、本学留学生らと一緒に地球環境への意識を高め、今は習慣として薄れつつある伝統を伝えると共に、参加された方々との交流を深めていました。



12月13日 | 環境問題を家族で考える「若葉会談」を開催

金目公民館(平塚市南金目)にて「若葉会談」を開催。本イベントは、地域の方々に環境問題について理解していただき、共に「小さなエコ」に取り組んでいくことを目的として企画しました。また、小さなお子さんでも分かりやすく動物たちの視点から、人間と動物の関わりと自然

の大切さが学べる、市民グループ『「ほほえみ」宅急便』による人形劇『誰のもの』公演も併催。さらに、日常生活ですぐに実践できる取り組みとして、「エコたわし作り」のワークショップも行ない、参加して楽しんでもらいながら、環境問題への理解と取り組みを伝えました。



学習支援

Tokai International Communication Club (TICC)

湘南
キャンパス

国際交流を通して、「社会・地域貢献」を行うボランティア団体です。主に大学周辺に住む外国人や外国人児童、留学生を対象に言語面だけでなく生活面や精神面をサポートし、それらを通して「真の国際交流」を学ぶことを目指して活動しました。

プロジェクトリーダー	孫 仁傑	工学部 材料科学科	3年	
サブリーダー①	松尾 菜美子	文学部 日本文学科	3年	
サブリーダー②	西濱 沙織	文学部 心理社会学科	3年	
広報リーダー	岩田 百合乃	文学部 文芸創作学科	3年	
会計責任者	高梨 隼	文学部 英語文化コミュニケーション	3年	参加人数 43人

12月9日 | 「国際理解シンポジウム」を開催

湘南キャンパス松前記念館講堂にて「外国人児童・生徒が抱える問題を理解しよう『ランドセルって何に使うの?』」を開催、約60人が聴講しました。はじめに中国出身でTICCのプロジェクトリーダーの孫仁傑(まさたか)さんが小学生の時に中国から日本へ移住した自らの体験を語り、「重要なことはお互いの違いを認めること。身近なことから変えていき、外国人も共に生きられる社会にしていきたい」と発言しました。次に教養学部国際学科の小貫大輔准教授がブラジル人の妻ともうけた子どもたちが直面した日本での就学問題や、本大学が支援するブラジル連邦共和国による在日ブラジル人教育者向け「遠隔教育コース」を紹介。秦野市立本

町中学校日本語支援教室講師の武藤心子氏は本町中学校の国際教室に通う外国人生徒たちの事例を説明。最後に秦野市教育委員会教育長の金子信夫氏が、自治体としての外国人受け入れ対策などを解説し、「支援という発想ではなく、お互いが共に利益を得るという“win-win”の発想が大事である」と指摘。講演後には、本プロジェクトアドバイザーで外国語教育センターの森山美紀子准教授をコーディネーターとしたパネルディスカッションも行いました。聴講した学生たちは「孫さんや中学生たちの話を聞いてモチベーションが高まりました」「教育長の講演でいろいろなデータが示され、現状を把握することができました」と感想を述べました。



サイエンスコミュニケーター

特別
プロジェクト

湘南
キャンパス

現在の日本では理科離れ現象が深刻化し、先進国の中でも特に女子の理科離れが顕著となっています。本プロジェクトは、このような現状を学生の視点で改善することを目的に、理・数・ものづくり(工学)などへの関心を持つ若者を増やすための中高生を対象としたサイエンス教室などのイベント開催をはじめ、子供たちから大人まで楽しめる、さまざまな社会活動を実施。2009年度は、本学が展開する「皆既日食観察プログラム」と連動した社会活動を行いました。

プロジェクトリーダー	岸 茜	理学部 物理学科	3年	
サブリーダー①	井戸 瑛子	理学部 物理学科	3年	サブリーダー② 野尻 真弘 理学部 物理学科 2年
広報リーダー	梶田 聡史	理学部 物理学科	1年	会計責任者 山田 美俊 理学部 数学科 1年

参加人数 30人

4月29日 | 「モバイルプラネタリウム! みんなで楽しむ日食教室」を開催

サイエンスコミュニケーターと理学部物理学科が、湘南キャンパスの17号館ネクスホールで「みんなで楽しむ日食教室」を開催。近隣の小学生など155名の参加がありました。本学では7月22日(水)にトカラ列島に発現する皆既日食、全国で見られる部分日食を、学園内の各キャンパスで観測。今回のイベントはその活動の一環として行ったもので、学生日食チームが運営を担当しました。本プロジェクトは2008年度チャレンジセンター開講科目「プロジェクト入門I」と「II」を受講した学生たちが立ち上げたプロジェクト。日食を通じて「環境を考え、感動し、地球や周りの人に感謝する」イベントの企画立案、運営を行っています。当日は、移動式プラネタリウムの出張投影を

行っている横浜モバイルプラネタリウムを招き、1998年にカリブ海で観測された皆既日食の映像を上映して、皆既日食の原理や実際に観測する際の注意点などを紹介。220万個の恒星を投影する小型モバイルプラネタリウム「メガスター・ゼロ」を使って、その時期に見られる星空や星座を解説していただきました。また学生たちが日食にちなんだクイズラリーを行ったほか、物理学科がスーパーカミオカンデで使われている光電子増倍管など、宇宙物理学で使用する観測機器を展示。平塚市内から参加した親子は「日食に興味があって参加しましたが、日食がますます楽しみになりました。当日も湘南キャンパスで観測に参加したい」と話していました。



7月20日～23日 | 奄美大島で日食教室を開催

7月22日の皆既日食に合わせ、鹿児島県奄美市名瀬及び笠利町屋仁小学校において、NPO団体ポートタウンあまみと共同し、日食教室を開催しました。本企画は、日食を見る上での注意点の指導や写真の撮り方、フォトコンテスト、日食にまつわる神話を題材にしたデジタル絵本の上映、鳥や動物などの変化を見るための調査などを実施。さらに、肉眼で観測した皆既日食の観測結果を発信し、より多くの人に伝えることによって、感動を共有し、理科の魅力を伝えていくことを目的としています。皆既日食を体験した後に簡単なアンケート調査を行い、心の変化を分析。事前に実施した教育プログラムが皆既日食を体験する上で

のように役立ったか、また感動をより深いものにしたか等について知り、今後の活動に活かすため、その結果は報告会や展示会で紹介。また、皆既日食を肉眼で観測した人の生の声を動画というかたちで伝え、今回見られなかった人を含め、より多くの人と感動を共有することを目的として、ビデオインタビューも実施しました。メンバーの櫻井素直美さんは、「日食を見られたことより、子どもたちと楽しめたことが嬉しい」と語りました。



Music Art Project

湘南
キャンパス

Music Art Projectは、音楽を通して地域の方々や同校・他校の方々と交友し、メンバー全員で演奏会やオペラなど、1つの作品を作り上げるプロジェクトです。2009年は、演奏会を中心に活動。様々な形式の演奏会・新しい演奏会をメンバー全員で取り組んでいます。音楽が好きな方が楽しめ、さらに聴いてくださる方にも楽しんでいただけるような演奏会の実現を目指して活動を続けました。

プロジェクトリーダー 田端 陽太郎 教養学部 芸術学科音楽学課程 3年
サブリーダー① 工藤 雄一 教養学部 芸術学科音楽学課程 3年 / サブリーダー② 中島 麻耶 教養学部 芸術学科音楽学課程 2年
広報リーダー 原 澄子 教養学部 芸術学科音楽学課程 3年 / 会計責任者 尾形 睦望 教養学部 芸術学科音楽学課程 3年

参加人数 103人

7月13日 ・11月25日 「Concerto di Estate」と「CONCERTO DI AUTUNNO」を開催

湘南キャンパス松前記念館において、夏のコンサート「Concerto di Estate コンチェルト・ディ・エスターテ」と、秋のコンサート「CONCERTO DI AUTUNNO コンチェルト・ディ・アウトゥンノ」を開催しました。

普段堅苦しいと思われがちなクラシックコンサートを気軽に楽しんでもらい、ご来場いただいた皆様と同じ空間を共有し、交流をはかれるコンサートになることを目指して、いずれも企画運営から出演まで全ての工程を同プロジェクト学生が担当。声楽をはじめ、ピアノ、フルート、サクソなどを用い、様々な曲目を披露しました。

本学学生・教職員のほか地域の皆様も来場し、「様々な楽器の演奏が一度に聴けてとても良かった」「またこのようなコンサート企画をしてほしい」といった感想をいただきました。



12月20日 「湘南ひらつか第九のつどい」に出演

Music Art Projectが12月20日(日)平塚市民センターホール(神奈川県平塚市見附町)にて開催される「第19回湘南ひらつか第九のつどい」において、ベートーヴェン 交響曲第九番 二短調 作品125「合唱付」の演奏に出演しました。

出演は本プロジェクトメンバーをはじめ、湘南ひらつか第九のつどい合唱団および神奈川県管弦楽団の皆様など総勢約200人での演奏となり、来場の方々は、2009年の締めくくりとして、歓喜の歌を楽しんでいました。



TOKAI DESIGN PROJECT

湘南
キャンパス

旭川
キャンパス

沼津
キャンパス

学外の様々な展示会に作品を出展することをはじめとする活動を実施しています。旭川、湘南、沼津キャンパスの学生が集い、デザイン展やコンペ等を通じて、学外に向けて積極的に「TOKAI DESIGN」をアピールするとともに、キャンパス間の連携も図っています。これまで東京デザイナーズウィーク等のコンペへの参加や、世界的なデザイン展への出展など、活動の場を広げることで、メンバー個々の能力の向上やデザインに対して新たな発見を探索し続けました。

プロジェクトリーダー 大川 紘一 教養学部 芸術学科デザイン学課程 4年
サブリーダー① 児平 亮 教養学部 芸術学科デザイン学課程 4年 / サブリーダー② 大城 将弘 教養学部 芸術学科デザイン学課程 3年
広報リーダー 野澤 文音 教養学部 芸術学科デザイン学課程 4年 / 会計責任者 碓屋 柊子 教養学部 芸術学科デザイン学課程 3年

参加人数 58人

10月30日 ～11月3日 「東京デザイナーズウィーク2009」に参加

東京・明治神宮外苑で開催された、国内最大級のデザインイベント「東京デザイナーズウィーク2009」に参加。同プロジェクトは、国内外の33校39グループによる約500作品が展示された「学生作品展」に出展。今回は旭川キャンパスから10人・6作品、湘南キャンパスから23人・5作品が参加しました。9回目となる学生作品展のテーマは「GREEN LIFE」。「TOKAI DESIGN PROJECT」のブースでは『日常の中の大切なもの』をコンセプトに、11作品を出品しました。それぞれが異なる視点から日常の何気ない行為を見直す仕掛けを提案。作品を通じて「普段の生活で見過ごされているものにこそ、環境や心のゆとりを取り戻すきっかけがある」との思いを表現しました。

リーダーの大川紘一さんは、「今年は屋外展示となり、制限や規制が厳しかった上に、展示台やパンフレット作りなど作品制作以外にも多くの作業がありました。苦労の連続でしたが、その過程で3年生が自主的に2年生の面倒をみるようになるなど、各メンバーがそれぞれに良い経験を得られたと思います」と話しています。また、旭川キャンパスの浅田知実さんは、「旭川と湘南という離れたキャンパスの学生が力を合わせて、ひとつのまとまりあるブース作りをするために、インターネットやテレビ電話を駆使して頻繁にコミュニケーションを取りながら進めてきました。2つのキャンパスが共同で展示できたことを誇りに思います」と感想を語っています。



チャレンジセンタープロジェクト学科別参加人数

学 部	学 科	人数
国際文化部	地域創造学科	38
	国際コミュニケーション学科	35
生物理工学部	生物工学科	4
	海洋生物科学科	15
芸術工学部	くらしデザイン学科	50
	建築・環境デザイン学科	17
情報通信学部	情報メディア学科	1
	経営システム工学科	1
文学部	文明学科	1
	アジア文明学科	6
	ヨーロッパ文明学科	2
	アメリカ文明学科	8
	北欧学科	13
	歴史学科日本史専攻	2
	歴史学科東洋史専攻	5
	歴史学科西洋史専攻	2
	歴史学科考古学専攻	1
	日本文学科	3
	文芸創作学科	4
	英語文化コミュニケーション学科	13
	広報メディア学科	7
	心理・社会学科	35
政治経済学部	政治学科	15
	経済学科	13
	経営学科	10
法学部	法律学科	16
	人間環境学科自然環境課程	21
教養学部	人間環境学科社会環境課程	4
	芸術学科音楽学課程	80
	芸術学科デザイン学課程	39
	国際学科	70
理学部	数学科	6
	物理学科	20
	化学科	12
	情報科学科	1
情報理工学部	コンピューター応用工学科	4
	生命化学科	8
工学部	応用化学科	3
	エネルギー工学科	3
	電気電子工学科	24
	材料科学科	5

学 部	学 科	人数
工学部	建築学科	63
	土木工学科	3
	精密工学科	10
	機械工学科	22
	動力機械工学科	75
	航空宇宙学科航空宇宙学専攻	71
体育学部	競技スポーツ学科	1
	武道学科	1
	生涯スポーツ学科	9
	スポーツ・レジャーマネジメント学科	45
健康科学部	社会福祉学科	4
	感性デザイン学科	33
開発工学部	生物工学科	1
	医用生体工学科	1
海洋学部	海洋建設工学科	1
	船舶海洋工学科	12
	海洋資源学科	3
	海洋科学科	3
	水産学科	2
	海洋生物学科	2
総合経営学部	マネジメント学科	37
	環境保全学科	6
産業工学部	電子知能システム工学科	38
	機械システム工学科	6
	建築学科	32
農学部	応用植物科学科	21
	応用動物科学科	25
	バイオサイエンス学科	5
理工学研究科	総合理工学専攻	2
人間環境学研究科	人間環境学専攻	1
理学研究科	物理学専攻	2
	化学専攻	4
工学研究科	電気電子システム工学専攻	4
	情報通信制御システム工学専攻	5
	建築学専攻	7
	土木工学専攻	1
	航空宇宙学専攻	10
	経営工学専攻	1
海洋学研究科	海洋生物科学専攻	1
農学研究科	農学専攻	2
合 計		1189

2009年5月時点

ユニークプロジェクト

■湘南キャンパス

SEE Project
コンクリートカヌープロジェクト
Beijo Me Liga(ベイジョ メリーガ)
きらきら実験教室
ヒューマノイド研究チーム
ライトプレーンプロジェクト
Same Same But TOKAI

■旭川キャンパス

アイスバンテオン・プロジェクト2010
(氷の神殿建設プロジェクト)

■札幌キャンパス

地域連携研究プロジェクト
サケキッズ環境プロジェクト

■代々木キャンパス

古河駅西側地区町並み開発プロジェクト

■熊本キャンパス

地域・イキイキプロジェクト

■阿蘇キャンパス

蒼の散歩道
あにまるれすきゅープロジェクト

11月1日～4日

東海大学建学祭 各プロジェクト企画一覧

ライトパワープロジェクト
ホームカミングデー展示

東海大学学生ロケットプロジェクト
TSRP屋内・屋外展示
モデルロケット教室

Tokai Formula Club
フォーミュラカー大公開

先端技術コミュニティ「ACOT」
プログラミングコンテスト
ロボット等の展示とデモ

東海人力レーススポーツプロジェクト
今年度の活動内容発表
ブース出展

障害者自立支援プロジェクト
展示企画 パン de Scholar

病院ボランティアプロジェクト
展示企画 学生と病院をつなぐボランティア

障がい学生支援プロジェクト
Let's障がい体験

キャンパスストリートプロジェクト
おねね夜市 東海大学建学祭PRESTAGE★
ピーチハウス再建
メッセージ・フラッグ展示

ビーチライフ創生プロジェクト
展示企画「砂浜の図書館」

スポーツ社会貢献プロジェクト
高齢者いきいきプロジェクト
ギネスに挑戦!

人と人をつなぐまち沼津
電柱アートお披露目式
活動展示

LINK THE LOCAL
東照祭 Link The Local

阿蘇援農コミュニティプロジェクト
農業シンポジウム

肥後のたまもの
農作物直販・農作物試販会

日本縦断キャラバン隊
天ぷら油バスで日本縦断

Green Communications
ゴミステーション
エコノートをつくらう!

Tokai International
Communication Club
建学祭ツアー

サイエンスコミュニケーター
皆既日食報告展示

Music Art Project
MAPコンサートIN建学祭

TOKAI DESIGN PROJECT
TDP作品展示

6月19日～21日

木工制作でおこなう社会貢献
プロジェクト(札幌キャンパス)
パネル展示活動紹介
福祉除雪プロジェクト
(旭川キャンパス)
パネル展示活動紹介

チャレンジセンター科目

チャレンジセンター科目には、学生自身に「気づき」を促す多様な手法が組み込まれています。

日常生活における課題へのアプローチ方法を身に付けたり、キャンパスライフで直面する様々な問題の解決方法をみつけることができます。

集い力Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

人間関係を構築して、
集団で物事に取組むための
コミュニケーション能力を
高める授業

授業内容

共通の目標に向けて役割を分担し、限られた時間・エネルギー・資金などを使って目的を達成するには、自分の考えを周囲に伝え、相手の考えを的確に理解し、目標達成に向けた合意をつくる必要があります。この授業では、こうした技術を、グループディスカッションを通じて養います。

挑み力Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

自らを取り巻く状況を
理解して、問題を
発見・解決する能力を
高める授業

授業内容

目標が決まった場合、その目標を効果的・効率的に達成するためには、どのような準備をし、どのような計画を立てて、実行していけば良いのでしょうか?この授業では、ブレインストーミングなど、いろいろな発想法を体験しながら、問題を発見し、解決する力を養います。

成し遂げ力Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

目標を達成するための
計画を策定し、運用していく
ためのマネジメント能力を
高める授業

授業内容

目標を達成するためのいろいろな作業を、複数の人からなるチームが実行していくためには、資金・時間・エネルギーを効率的に運用していく必要があります。この授業では、作業工程の管理や人を動かすために必要とされる、プロジェクトマネジメント、セルフマネジメントの能力を高めます。

Ⅰ・・・個人の能力を鍛える

Ⅱ・・・集団で目的に向かい、達成する能力を培う

Ⅲ・・・3つの力の実践における様々なスタイル・方法の認知(オムニバス形式)

プロジェクト入門Ⅰ・Ⅱ

授業で出会った仲間と
ともに、課題に取組み、
実践力を身につける授業

授業内容

授業で出会った仲間とともに、課題(ミニ・プロジェクト)を企画・運営する体験を通して、「コミュニケーション能力」「問題を発見・解決する能力」「マネジメント能力」を総合的・応用的に高めます。

Ⅰ・・・ゼミナール型授業

Ⅱ・・・体験型授業

ジャーナリズム
実践教育コース



成果をまとめた冊子

授業内容

読売新聞東京本社との教育研究協定に基づき、本学の知的資源（全国に広がるキャンパス、総合・学際的研究教育体制）と、読売グループのメディア資源（新聞、TV、雑誌、Webなどの媒体と記事・番組及び報道技術を持った人材）を結合して、「常に社会とつながっている、大学内で行われるジャーナリズム教育」を実現することを目的として設置されました。

授業では、読売新聞東京本社のベテラン記者が、新聞社、通信社、放送局などのジャーナリストを目指す学生のために、取材の方法から記事の書き方まで具体的に指導します。今年度も「中央公論」4月および10月号において『東海大学特別企画「ニュースの場所」を行く』と題し、履修学生による取材とそのリポートが掲載されました。

また、札幌キャンパスで今年度から開講された「プロジェクト入門Ⅰ」は、「札幌の観光」をテーマに独自の記事を作成することを目標とした講義・企画・見学・取材・執筆・発表を4日間で行なうというハードスケジュールで実施されました。札幌キャンパスの学生に加え、湘南の学生も履修し、全国に広がる本学のスケールメリットを生かしたセッションを行うことができました。この成果をまとめた冊子を、履修学生たちが中心となり2010年3月に作成しました。

観光学副専攻

授業内容

全日空（ANA）との教育研究協定に基づき、観光にかかわる自然・社会・文化など各領域にわたる環境の整備を総合的に研究し、人間性豊かな文明社会を実現することができる人材の育成を目的として設置されました。本学の関連分野の研究者と、実務経験豊富な講師陣が授業を担当します。

将来、旅行業、ホテルや旅館などの宿泊施設、テーマパークなどの観光レジャー施設への就職を目指す学生はもちろん、キャビンアテンダントをはじめとする航空業、鉄道、自治体、NPOなどに就職を考えている人にとって魅力的な授業が用意されています。



【履修者状況一覧】

授業科目名	担当教員名	開講クラス数	履修者人数
集い力Ⅰ	崔 一英 ・ 岡田 工 ・ 園田 由紀子 ・ 尾崎 由佳	12	624
集い力Ⅱ	園田 由紀子 ・ 尾崎 由佳	3	161
集い力Ⅲ	園田 由紀子 他		82
挑み力Ⅰ	園田 由紀子 ・ 尾崎 由佳	5	456
挑み力Ⅱ	堀本 麻由子 ・ 大熊 亨	4	129
挑み力Ⅲ	尾崎 由佳 他		24
成し遂げ力Ⅰ	園田 由紀子 ・ 尾崎 由佳	6	713
成し遂げ力Ⅱ	尾崎 由佳 ・ 堀本 麻由子	2	93
プロジェクト入門Ⅰ	崔 一英 ・ 岡田 工 ・ 尾崎 由佳 ・ 堀本 麻由子	12	164
プロジェクト入門Ⅱ	崔 一英 ・ 岡田 工 ・ 尾崎 由佳 ・ 堀本 麻由子	7	50
挑み力Ⅲ	尾崎 由佳 他		24
成し遂げ力Ⅰ(清水)	園田 由紀子		27
成し遂げ力Ⅰ(沼津)	園田 由紀子		18
合 計			2483

〈ジャーナリズム実践教育コース〉

授業科目名	担当教員名	開講クラス数	履修者人数
ジャーナリズム入門Ⅰ	山口 勉 ・ 岩田 伊津樹	2	135
ジャーナリズム演習Ⅰ	山口 勉		21
時事英語演習Ⅰ	山口 勉	2	40
フォト・ジャーナリズム	山岸 直子		33
国際ジャーナリズムⅠ	山口 勉		151
政治ジャーナリズム	尾崎 和典		102
出版ジャーナリズム	堀間 善憲		30
ウェブ・ジャーナリズム	岡本 勉		28
経済ジャーナリズム	杉山 美邦		70
ジャーナリズム入門Ⅱ	山口 勉		29
ジャーナリズム演習Ⅱ	山口 勉		9
ジャーナリズム・ゼミナール	山口 勉		10
時事英語演習Ⅱ	山口 勉		14
国際ジャーナリズムⅡ	山口 勉		101
科学ジャーナリズム	保坂 直紀		47
環境ジャーナリズム	岩田 伊津樹		154
スポーツ・ジャーナリズム	結城 和歌子他		378
出版ジャーナリズム	堀間 善憲		53
マスコミ法制	丸山 伸一		64
医療・福祉ジャーナリズム	田中 秀一他		21
合 計			908

〈観光学副専攻〉

授業科目名	担当教員名	開講クラス数	履修者人数
観光学概論	泉 正史		122
シティプロモーション概論	本田 量久		64
観光ビジネス概論	立原 繁		204
レジャー・ツーリズム概論	西野 仁		194
観光政策論Ⅰ	榎本 通也		200
交通論	泉 正史		204
都市景観論	屋代 雅充		162
観光人類学	松本 亮三		204
ホスピタリティ論	館野 和子		84
文化とホスピタリティ	館野 和子		109
世界遺産論	松本 亮三		115
地域環境論	屋代 雅充		76
国際観光論	三瓶 文博		86
観光政策論Ⅱ	榎本 通也		123
観光産業論	泉 正史		82
観光経営論	立原 繁		238
交通論	泉 正史		116
都市景観論	屋代 雅充		159
観光心理学	服部 泰		62
ホスピタリティ論	館野 和子		110
文化とホスピタリティ	館野 和子		100
パークス・レクリエーション論	西野 仁		69
地域環境論	屋代 雅充		78
国際観光論	三瓶 文博		150
観光広告論	三瓶 文博	2	275
合 計			1841

※同じ名称の科目が複数開講されている場合は、総履修者人数を記載。

チャレンジセンタールーブリック(教育目標)を使った教育 実践の取り組み

～「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」の評価と教育目標～

チャレンジセンターでは、学生の社会的実践力・能動的学習力を育成し、教育目標の達成度を評価するための基準としてルーブリック(教育目標)を開発し、これを用いた教育目標の達成度評価の妥当性について検討を進めてきました。2009年度は、次の2点について検討を行いました。

1. 社会的実践力の育成を専門科目でも実施するためのルーブリックの作成

ルーブリックは、東海大学が目指す社会的実践力とは何かを明確化し、より効果的な教授法を開発することを目的として2008年度に作成されました。ルーブリックでは、「前向きに思考し行動する力」を基礎的な力と位置づけ、その上位概念として、他者と共生し、社会を構築するための「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」が位置づけられていることを示しました。社会的実践力という抽象的な概念を複数の構成要素に分け、それらを育成するための教育目標を説明することで、具体的な教育の方向性を示すことができました。しかし、このルーブリックは、大学全体の教育目標として提示するには要素が多く複雑であり、様々な専門教育を行っている本学で、どのような専門科目においても目標として設定できるルーブリックを示す必要がありました。そのため、基礎的な力である「前向きに思考し行動する力」の教育的な要素を、個人が専門的知識と技術を習得するために意欲を持って自律的に学び、生涯にわたって自らを磨き続けられる学習スキルおよび学習習慣を身に付けさせるという意味で「自ら考える力」と読み替え、個のスキルとして新たなルーブリックを作成することになりました。さらに、自らの知識や技術を社会の中で発揮するために必要な社会的スキルを磨き、公共のために役立ちたいと願う社会貢献意識を身に付けさせるという目的を加え、汎用可能な形態のルーブリックの作成を行いました。また、すべてのルーブリックを5段階から3段階へと簡素化しました。

【4つの力 ルーブリック】

	「個」のスキル	「共」のスキル		
	自ら考える力	集い力	挑み力	成し遂げ力
レベル3	専門知識や技術を、さまざまな場面に応用できる。自発的に新しい知識や技術を学ぶ。	自分と他者の考えの違いから新たな学びを得る。チームワークを通じて、高い成果をあげられる。	社会に存在する課題や問題点を見出し、具体的な解決案を企画できる。	習慣的に計画を立て、実行できる。困難や失敗を乗り越え、前向きに努力を続けられる。
レベル2	専門的知識や技術について、高度な理解ができる。	自分の考えを明確に表現し、他者の考えを適切に理解できる。チームワークにおいて互いに協力できる。	社会に存在する課題や問題点を見出せる。おおまかな解決策を提案できる。	自発的に計画を立て、意欲を維持できる。
レベル1	専門的知識や技術について基礎的な理解がある。	自分の考えをおおまかに表現できる。	社会に対する関心を持つ。	他者の助けがあれば、計画を立て、意欲を維持できる。

■ 社会的実践力ルーブリック汎用モデルのポイント

「個」のスキル

「自ら考える力」では、「考える」ことの段階的な達成度を、「基本的理解」をレベル1とし、さらに「高度な理解」をレベル2、「応用力」と「自発的学習」をレベル3とするルーブリックを作成した。さらに、どのような分野にも対応できるように、「専門的知識や技術」に対する理解力、応用力の達成度を段階的に組み込んだ。

「共」のスキル

「集い力」については、コミュニケーションの基本となる大まかな自己主張、自己表現ができることをレベル1、他者の意見を理解し他者との協力ができることをレベル2、高い成果を目指した協働を通じて自ら学ぶ能動的学習ができることをレベル3とするルーブリックを作成した。

「挑み力」については、レベル1では「社会的関心」、レベル2では「問題発見」と「解決策」、レベル3では「具体的な解決方法」の企画力を構成要素とするルーブリックを作成した。

「成し遂げ力」については、目標達成までの計画の作成と達成までの自己規制をもとに、レベル1では、他者の援助による計画作成と意欲維持、レベル2では、自発性を加えた計画力と意欲管理、レベル3では、計画力に、実行力と危機対処と継続力を加えたルーブリックを作成した。

◆「自ら考える力」構成要素

- < 知識獲得 > 新たな知識や技術について学び、身につけること。
- < 統合的理解 > 学んだことを論理的に統合し、総合的な理解を生み出すこと。
- < 学習意欲 > 意欲をもって前向きに学習すること。

◆3つの力の構成要素

集い力

- < コミュニケーション > スムーズに情報交換や意思疎通を行えること。
- < 関係構築 > 相互理解と信頼を深めながら、協力的な人間関係を築けること。
- < アイデンティティ獲得 > 人間関係の中で自分の役割や貢献の仕方を見出すこと。

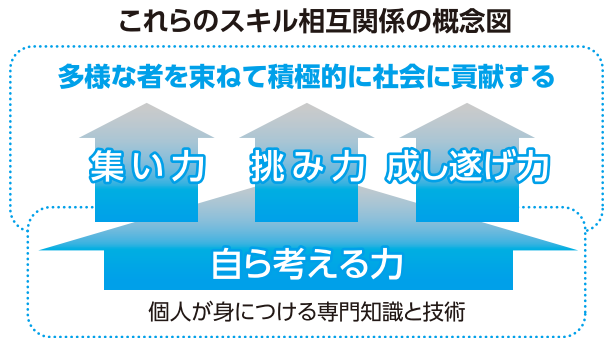
挑み力

- < 問題発見 > 社会的視野を広げて疑問や問題意識を持つこと。
- < 構想力 > 疑問や問題に対して、解決策となるアイデアを豊富に生み出すこと。
- < プランニング > アイディアを具体化し、企画のかたちにとめること。

成し遂げ力

- < 工程管理 > 目標を設定し、その達成に至るまでの計画を立てること。
- < 実行と継続 > 計画を実行し、困難や失敗を乗り越えて努力を継続すること。
- < 分析と修正 > 実行成果をふりかえり、その気づきを次なる挑戦に活かすこと。

このように、多くの要素で構成されている社会的実践力を、広く活用できる簡便な形式のルーブリックとして作成することで、社会的実践力を育うための具体的な教育目標を示すことができました。また、教授法や講義内容を指定するのではなく、ルーブリックという段階的な教育目標として挙げることで、様々な授業への応用が可能となります。さらに、測定が難しい社会的実践力のような抽象的な能力の評価の基準としても活用が可能となります。今回は、社会的実践力育成に向けた方向性をルーブリックとして提案することにとどまりましたが、今後は、各学部・学科で活用できる汎用性の高いルーブリックの作成に加えて、ルーブリックの有効性を実証する調査・研究を推進していきます。



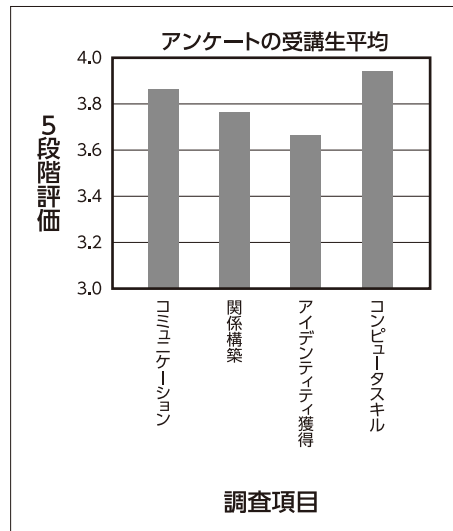
2. ルーブリックを使った学習達成度測定の試み ～ビデオ制作を通した「集い力」教育の事例から～

作成したルーブリックを実際の授業の中で活用し、評価や測定を行った事例として、2009年度春学期にチャレンジセンターの崔一煥教授、岡田工准教授によって行われた、ビデオ制作を通した「集い力」教育の事例研究を報告します。今回の研究は、「集い力」の授業で多くみられたエンカウンターやロールプレイ、ゲーム形式の演習ではなく、情報機器を使った作品製作という共同作業の中で、集い力と情報機器の活用スキルを養う試みを実施し、その効果をルーブリックを活用して測定した結果です。「集い力Ⅰ」では、PCを活用した発表とその発表に対する評価の集計・報告書作成の方法や、学生同士がコミュニケーションを取りながらビデオ制作を進め、その中で初対面の人への理解と協働の方法を学ぶことを目的としました。さらに、基礎的なコンピュータスキルの向上を図ることも目指しました。授業では、学生同士の相互理解を促すため、教員が設定した共通の質問事項に従って、自己紹介用の個人資料を作成し、4～5名のグループで口頭による自己紹介と質疑を行いました。その後、個人資料に基づいて、パワーポイントで自己紹介用スライドを制作しました。グループを再編成し、グループ毎にパワーポイントを使って再度、自己紹介の発表および質疑を行いました。授業の後半では、静止画によるビデオ制作をグループワークとして実施しました。ビデオ制作の手順を説明した後、制作するビデオのシナリオと絵コンテを、グループディスカッションを通して完成させました。演習の進捗度は、各グループのチームワークが大きく影響し、積極的に牽引するリーダーの有無が大きな鍵となりました。このように、映像機器を使い、協力してひとつの作品製作を行う演習の中でも、十分に「集い力」が育成されることを示しました。このことを確認するため、図1に示すように、教育目標であるルーブリックに示した内容を5段階評価のアンケートで調査しました。図2は受講生約100名に対するアンケート結果の平均値です。5段階評価の中で、3は「変化なし」、4は「できるようになった(向上した)」という評価です。5に近いほど、向上したことになります。4つの調査項目の中で、「コミュニケーション」はスムーズに情報交換や意思疎通を行うこと、「関係構築」は相互理解と信頼を深めながら協力的な人間関係を築くこと、「アイデンティティ獲得」は人間関係の中で自分の役割や貢献の仕方を見出すことを意味します。この調査項目に関する設問を、各2～3問設定しています。「アイデンティティ獲得」を除いて、3つの項目では評価4に近い値となっています。また、各設問において、約60%以上の学生が「できるようになった(向上した)」と回答しています。「コンピュータスキル」に関しては、情報リテラシー等の授業と重複する内容が含まれるため、学生にとっては簡単すぎるかと思われましたが、予想に反して、75%以上の学生が「できるようになった(向上した)」と回答しました。また、「見知らぬ者どうしが、何かひとつの物を制作する難しさ、素晴らしさを体験でき、この過程で友達を作ることができた」といった感想文が多く提出されました。これらの結果から、この授業の当初の目的をほぼ達成することができたと思われます。このように、授業での学生の学習達成度を測定する上でルーブリックが有効に活用できることが分かりました。今後もルーブリックを用いて、授業やプロジェクトによる教育効果の測定を継続的にを行い、さらに完成度の高いルーブリック作成を進めていきたいと考えています。

図1 アンケート質問項目

この授業を受講して変わったと思われることを、5～1の数字に○をつけてください。					
コミュニケーション	自分の考え、気持ち、価値観を他者に伝えることができるようになった。	5 とてもできるようになった 4 できるようになった 3 変わらない 2 できない 1 全くできない	アイデンティティ獲得	自分の技能や特長を活かせる役割を自発的に見つけ出し、他者のために貢献できるようになった。	5 とてもできるようになった 4 できるようになった 3 変わらない 2 できない 1 全くできない
	様々な他者の考え、気持ち、価値観を理解できるようになった。	5 とてもできるようになった 4 できるようになった 3 変わらない 2 できない 1 全くできない		他者から期待される役割を果たし、その中で自分らしさを活かすことができるようになった。	5 とてもできるようになった 4 できるようになった 3 変わらない 2 できない 1 全くできない
	自分と他者それぞれの意見を大切にしながら合意に導くことができるようになった。	5 とてもできるようになった 4 できるようになった 3 変わらない 2 できない 1 全くできない		基本的な表、グラフ、報告書を作成することができるようになった。	5 とてもできるようになった 4 できるようになった 3 変わらない 2 できない 1 全くできない
	初対面の相手と積極的に対話し、理解と信頼を築くことができるようになった。	5 とてもできるようになった 4 できるようになった 3 変わらない 2 できない 1 全くできない		パワーポイントに図、写真、表を取り込み、発表用スライドが作成できるようになった。	5 とてもできるようになった 4 できるようになった 3 変わらない 2 できない 1 全くできない
	仲間と共有できる理念や目標をつくり、協力し合う関係性を築けるようになった。	5 とてもできるようになった 4 できるようになった 3 変わらない 2 できない 1 全くできない		写真、タイトル、サウンドを取り込んで基礎的なビデオを制作できるようになった。	5 とてもできるようになった 4 できるようになった 3 変わらない 2 できない 1 全くできない
関係構築	有益な人脈(友達関係)を築くことができるようになった。	5 とてもできるようになった 4 できるようになった 3 変わらない 2 できない 1 全くできない			

図2 アンケート結果



第1回FD研究会「特別プロジェクト『サイエンスコミュニケーター』の試み」

日時:6月2日 17:00～18:30 場所:湘南キャンパス 8号館4階 8-409教室 司会:岡田 工(チャレンジセンター准教授)

1.「サイエンスコミュニケーター」の目的と活動について

岡田工(チャレンジセンター准教授)

【どのような活動か】

親しみやすい理科教育の方法を考えることで、理科離れが進む小中高生及び大学生に、もっと科学に親しんでもらおうという目的を持って行われている。大学生及び大学院生によるプロジェクト活動。

【活動の背景】

チャレンジセンターの特別プロジェクトであり、プロジェクトに所属する東海大学の学生・大学院生が活動している。

2008年度チャレンジセンター科目「プロジェクト入門1」(担当:岡田工、園田由紀子)において、日食をテーマにした理科教育及びイベント企画を題材とする授業を行ったことが発端となり、当時の受講生の多くが引き続きメンバーとして活動している。

現在、メンバーは23名(6割が男子学生、4割が女子学生／7割が理系学生、3割が文系学生)

【活動内容】

7月22日の皆既日食に関わる取り組みを企画。

小中高校での教育支援ボランティア、大学における学習支援ボランティアの実施。

中高生に対する理工系進路選択支援イベントサポート(特に、女子中高生進路支援のためのサポートメンバーである女子学生が実施)

【今年度の活動予定】

今年度は、日食をメインテーマに据え、次の3つのカテゴリに大別される取り組みを行っている。

参加型 :フォトコンテスト、重話コンテスト

教材開発:デジタル絵本

体験型 :カメラ講座、日食講座、プラネタリウム上映

主なイベント日程

4月29日 モバイルプラネタリウム上映。日食教室の実施。

6月6日、7日 望遠丸一般公開における日食展示

6月10日 感動を残そう☆日食写真撮影講座

7月1日～8月31日 感動!フォトコンテスト

2. 物理学科におけるサイエンスコミュニケーターの動きについて

柳田淳子(理学部物理学科専任講師)

物理学科は、サイエンスコミュニケーターによるイベント「モバイルプラネタリウム 日食教室」(4月29日開催)の支援を行った。

チャレンジセンタープロジェクトの学生が中心となって行う活動であるため、物理学科としては「アドバイスやサポートの提供」という支援スタイルを取り、基本的には、質問があった時にのみアドバイスをすることとして、自主性を重んじた。ただし、来客との接し方については失礼のないようにしっかりと指導した。

【支援・アドバイス内容】

会場予約、約営(会場予約、学部生・院生による設営手伝い、展示物貸出)

広報活動(東海大学HPの理学部ニュースでの告知、取材担当者との橋渡し)

ポスター、チラシへのアドバイス(デザイン、文言のチェック、印刷、配布など)

クイズ問題監修(問題が科学的に正しいかどうかをチェック、難易度のアドバイス)

来客との接し方、質問に対する答え方

第2回FD研究会「特別プロジェクト『サイエンスコミュニケーター』の試み」

日時:6月30日 17:00～18:00 場所:湘南キャンパス 8号館4階 8-409教室 司会:岡田 工(チャレンジセンター准教授)

1. 2010年度新カリキュラムについて

岡田工(チャレンジセンター准教授)

【チャレンジセンター科目の位置づけ】

集い力Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、挑み力Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、成し遂げ力Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは、「目標を見つけ、計画を立て、遂行する方法を体験的に学ぶ授業」として位置づけられている。

プロジェクト入門Ⅰ・Ⅱは、「実際にプロジェクトを立ち上げ、運営する能力を高めるための授業」として位置づけられている。

【チャレンジセンター科目の問題点】

科目名から内容が想像されにくい。

科目や担当教員によって人数制限がある。

プロジェクト入門1の受講者が少ない。

【2010年カリキュラム変更の基本方針】

より分かり易い科目名と構成

(例:集い力Ⅰ→集い力(入門)、集い力Ⅱ→集い力(演習A/B)

プロジェクト活動支援との連動を具体化

(プロジェクト実践A/B/C/Dを開講し、プロジェクトに必要な知識・技術を教える)

副専攻化

2. コンピュータルームを利用した演習授業について

崔一煥(チャレンジセンター教授)

岡田工(チャレンジセンター准教授)

【授業の目的】

ビデオ制作をテーマとして、プレゼンテーション・ビデオ編集・グループワークなどを経験することを通じて集い力を養う。

【授業の概要】

ビデオ制作に必要なソフトウェアの利用のしかたを学ぶとともに、コミュニケーションの要素として自己紹介やグループワーク、プレゼンテーションの要素としてグループ発表や相互評価を取り入れている。

学期前半には、自己紹介スライドをパワーポイントによって作成し、その発表の様子を相互評価させるというワークを行った。また、相互評価の結果についてエクセルによってグラフ化し、報告書を作成させるという課題にも取り組ませた。

学期後半には、ムービーメーカーを用いたビデオ制作に取り組んだ。学生は数名でチームを組み、テーマの決定やシナリオ書き・絵コンテ作成・撮影・編集などに取り組み、最後に発表会を行う。

【授業の振り返り】

受講者人数は20～40名が適当と思われる。

ものづくりを通じてコミュニケーションを取ることが良い学びの機会になっている。

PCルームと一般教室の併用が望ましい。

コンピュータスキルに個人差があることに何らかの対処が必要である。

グループワークが中心の授業において、個人の成績をどのようにつけるかが問題である。

第3回FD研究会「2010年度新カリキュラムについて-その2 入門について」

日時:7月27日 17:00～18:10 場所:湘南キャンパス 8号館3階 チャレンジセンター会議室 司会:岡田 工(チャレンジセンター准教授)

1. 2010年度新シラバス 集い、挑み、成し遂げ力(入門)と(演習A)、(演習B)の分類について

岡田 工(チャレンジセンター准教授)

2010年度のカリキュラム改訂にあたり、チャレンジセンターが開講する「集い力Ⅰ・挑み力Ⅰ・成し遂げ力Ⅰ」は「集い力(入門)、挑み力(入門)、成し遂げ力(入門)」へ、「集い力Ⅱ・挑み力Ⅱ・成し遂げ力Ⅱ」及び「集い力Ⅲ・挑み力Ⅲ・成し遂げ力Ⅲ」は、「集い力(演習A/B)・挑み力(演習A/B)・成し遂げ力(演習A/B)」へと改訂される。これらの改訂は、科目の位置づけを明確にし、履修者にとって授業内容を分かり易く提示することを目的としている。

2.旧カリキュラム「集い力／挑み力／成し遂げ力」と新カリキュラム「集い力／挑み力／成し遂げ力(入門)」について

尾崎由佳(チャレンジセンター講師)

1)新カリキュラムの授業「集い力Ⅰ・挑み力Ⅰ・成し遂げ力Ⅰ」の特徴と成果

【授業目的と内容】

大学生活および卒業後の社会人生活において活用できる、実践的なスキルを育てることを目的とし、多様な学生を幅広く受け入れることが特徴。授業は、基本的に「講義」と「演習」のコンビネーションによって進められる。講義では、社会的実践力に関する理論的背景を理解し、演習では、講義で学んだことを教室内のワークで体験する。

講義や演習で学んだことについて再確認するために、「何を学んだ

か、何を考えたか、何を感じたか」についてグループで話し合ったり、毎授業後に「ふりかえりシート」に考察を記入したりする時間を設ける。

ただし、実践的スキルのレベルはレポートやテストでは測れない上、初期値が異なっていることから、スキルをみがく過程を重視し、「ふりかえりシート」においてどれだけ省察を深められているかを中心とした成績評価を行っている。

【成果と課題】

履修者を対象としたアンケートの結果から、集い力・挑み力・成し遂げ力の自己評価が受講によって向上したことが明らかになった。また、演習を多用することによって、学生の参加意欲が高まったことが分かる。

ただし、グループワークの場合、履修者によって参加意欲に差が生じたり、履修者数が多いと教員による十分な指導が難しくなることがあるため、多くの履修希望者をどのようにして受け入れていくかが課題である。

2)新カリキュラムの授業「集い力(入門)・挑み力(入門)・成し遂げ力(入門)」の構築に向けて

【授業目的と内容】

入門の授業は「基礎知識の充実」を目的とし、幅広く履修者を受け入れることを目的としたい。そのため、基礎知識を体系的に教えるための教材開発が望まれる。そして、大人数でも実施可能な演習形式の授業方法を導入することが必要である。また、実践例の紹介を増やしたり、チャレンジセンタープロジェクトや企業の取り組みなどの実例やロールモデルの紹介をしていきたい。

【今後の課題】

講義中心の授業でどのようにして実践力をつけるかを工夫する必要がある。過去の経験とつなげて考えるために、自分がこれまで経験してきたことの中から関連する事例を考えることが効果的である。将来の実践につなげるために、「いつ、いかなる場面、どのようにして実践するか」を具体的に考える機会を設けることが必要になる。

第4回FD研究会「2010年度新設科目「プロジェクト実践A・B・C・D」について」

日時:11月10日17:00～18:30 場所:湘南キャンパス 8号館4階 8-408教室 司会:岡田 工(チャレンジセンター准教授)

1. プロジェクト実践に向けて:パンdeラボールの取り組み

尾崎由佳(チャレンジセンター講師)

2010年度新カリキュラムで新設される「プロジェクト実践A・B・C・D」の授業目的の一つは、プロジェクト活動に役立つ専門知識の学習である。この授業に近似した活動を今年度行っている障害者自立支援プロジェクトの取り組みについて紹介した。

障害者自立支援プロジェクトでは、2009年度より自主的勉強会「パンde Scholar」を開催している。「パンde Scholar」は、プロジェクト活動に必要な知識学習とスキル獲得を目的としており、学習テーマは①「パン販売に活かすための統計分析法を学ぶこと、②障害者に対する偏見を減らすための心理学を学ぶこと、の2点である。発表者である尾崎は、プロジェクト・アドバイザーの立場でこの勉強会の指導を行ってきた。統計ソフトを用いた販売データの分析法や、偏見に関する心理学の学習を通じて、プロジェクト活動がより充実し、学生側にもメリットの大きい活動となったこと、そして外部関係者(奈野精華園)からも好評を得たことなどが報告された。

2. プロジェクト実践A、Bについて

岡田工(チャレンジセンター准教授)

チャレンジセンタープロジェクト「サイエンスコミュニケーター」参加学生向けの「プロジェクト実践」科目について、今後の展望が述べられた。授業目的として①「サイエンスコミュニケーターとは何か」という認識を養いつつ、科学的知識を増やすこと、②伝えるためのコミュニケーション能力を高めること、③パソコンを使って教材を提示する能力を高めること、④サイエンス・自然科学を「わかりやすく」説明するスキルを身につけることを目指し、これらの要請に応えられるような授業構成を考案している。具体的には、「プロジェクト実践A」においてサイエンスコミュニケーターについて理解することと、活動の手伝いができるコンピュータースキルを身につけること、「プロジェクト実践B」では実験を通じてプレゼンテーションやコミュニケーションの楽しみを知り、魅力のある実験を探し出すことを目的とした授業を行う予定である。その一環として、簡単に試すことのできるパッケージ化された実験プレゼンテーション教材(大道仮説実験)を用いて話し方・見せ方などを練習したり、「東海大学のたのしい実験」(仮称)として、わかりやすい・楽しい実験プレゼンテーションを開発して、誰でもできるような実験マニュアルを作成していくという案が提示された。

3. プロジェクト実践に向けて:TICCの取り組み

森山美紀子(外国語教育センター准教授)

チャレンジセンタープロジェクト「Tokai International Communication Club (TICC)」は、身近な国際貢献・地域貢献活動を行うプロジェクトである。国際教室での学習支援活動や、日本の小中学校の状況を紹介する資料作成、外国人との各種の交流イベントなどを行っている。来年度の「プロジェクト実践A・B」は複数の教員がリレー形式でそれぞれの専門分野に関連する授業を行う。授業目標は、①外国人との交流活動のあり方や外国人がよりよい生活を送れるような支援を考え、新たな活動を企画すること、②一連の授業を通じ、社会参加意識を高めることに置く。また、授業という場でプロジェクト活動について振り返るという作業も併せて行っていく。授業スケジュールとして1.問題把握、2.問題分析、3.意思決定、4.提案の4つの学習段階を設け1.2の段階で学んだ知識・問題意識を最終的に新たな外国人支援企画の提起につなげることを目指す。

第5回FD研究会「教育改革IT戦略大会および岡山理科大学GPフォーラムの報告」

日時:11月24日 17:00～19:00 場所:湘南キャンパス 8号館4階 8-408会議室 司会:岡田 工(チャレンジセンター准教授)

1. H21年度教育改革IT戦略大会に参加して

崔一煥(チャレンジセンター教授)

2009年度9月に開催された教育改革IT戦略大会では、教育改革推進の諸問題-ICT活用に伴う教育政策-教育効果を高めるICTの活用方法-最新の情報技術および情報環境などについて発表および討議が行われた。チャレンジセンターの取り組みにとって参考になる事例として次の3例を紹介する。

1)「ユーザの顔が見える」ソフトウェア開発演習授業の実践とその効果(日本工業大学)

外部NPO法人とシステム開発をテーマとして、互恵関係をもつ体験型授業を行った事例。学生がチームを組んで競争開発を行うことを通じ、ソフトウェア技術の実践力をつけるとともに、就職に有利となる経験を積むことができた。

2)インターネット中継を活用した地域情報発信プロジェクト教育の取り組み(城西国際大学)

地域中学生対抗駅伝のネット中継をテーマとして、大学・企業4社・高校2校が協働し、地域貢献型のプロジェクト教育を実施。

3)学生主導によるマルチメディア活用型レポート作成(同志社女子大学)

関西ものづくり・商店街の現状と課題・企業の資料収集などをテーマにして、取材・動画レポート作成・グループ発表などを行う実践型授業を

実施した。ITスキル、プレゼン能力、チームプロジェクト力などの養成を目指した教育が行われた。

また、報告者が大会において発表した内容は次のとおりである。

*ビデオ制作を通じた「集い力」教育(東海大学チャレンジセンター:崔一煥)

チャレンジセンターの趣旨、集い力の概念、「集い力」の授業構成やその効果などについて発表した。この授業は「言葉とコンピュータによるコミュニケーション」をテーマとし、グループワークによってムービーを作成する過程を通じて、集い力を身につけさせることを目指した。授業アンケート結果から、コミュニケーション能力・関係構築能力・アイデンティティ獲得・ITスキルについて教育効果があったことが確認された。

2. 岡山理科大学GPフォーラムの報告と今後のGPについて

岡田工(チャレンジセンター准教授)

2009年10月に開催された岡山理科大学GPフォーラムの参加報告が行われた。参考となる事例として次の4発表を紹介する。

1)基調講演「学生による科学ボランティアに期待すること」川勝博先生(名城大学)

1980年に「わくわく物理いきいき実験」という書籍を出版し、実験を中心としたサークルの取り組みについて紹介した。日本と海外の理科教

育の相違点や、21世紀に必要な基礎学力としての数学的リテラシーや科学的リテラシーについての議論がなされた後、青少年の知的好奇心を引きだす仕組みや、地域の科学ボランティアが必要とされていることが議論された。

2)立教大学「学生による教育企画」

「地域に根差した科学教育」として、大学生が作成した教育企画を小学校で実践している例が報告された。

3)鹿児島大学生涯教育センター「素知ん研究会」

「親子孫でたのしい科学講座」と名づけた実験プレゼンテーションの取り組みを紹介した。教材は教員が作り、それを学生がプレゼンテーションする経験を積むことを通じて、最終的には自ら教材を作成できるようになることを目指している。

4)岡山理科大学教育GP「理科大発・科学ボランティアリーダー」学生が自分で考え行動することができる学士力育成と、地域の科学リテラシーの向上を目指し、「科学ボランティアリーダー認定制度」を作った。認定された学生には、卒業時に認定証(科目単位取得・ボランティア活動・修得科目が記載されている)が授与される。科学ボランティアとして地域の科学振興を目指し、外部コーディネーターや教育委員会から協力を得つつ、科学少年団やサイエンス少年団などを運営している。

上記の参加報告内容をいかに活かすかについて議論がなされた。

第6回FD研究会「ビーチライフ創生プロジェクト省察会」

日時:12月10日 17:00～19:00 場所:湘南キャンパス 8号館3階 プロジェクト会議室 司会:深谷浩憲(チャレンジセンター推進室)

1. ビーチライフ創生プロジェクトの概略紹介

プロジェクトの目的と活動概要を説明し、「砂浜の図書館」や各種イベントの様子などを画像とともに紹介した。

2. プロジェクトメンバー各自の省察

高市慎太郎さん(政治学科1年)、森隼人さん(法律学科4年)、江成駿さん(情報数理学科1年)、松田弥花さん(北欧学科3年)、山家俊晃さん(北欧学科1年)、大久保翔太さん(建築学科2年)が、事前に用意されていた省察シート(A4用紙1～2枚)に基づいてプレゼンテーションを行った。省察シートには「1. 今回の活動は社会にとってどのような意味があったと思うか、2. 自分は何のようなことを大切にして取り組んだか、3. 今回、何に気付いたか、また、それを今後どのように生かしたいか」という3つの設問があり、それぞれに対して学生が自由記述する形式になっていた。

各メンバーの省察発表が終わるごとに、本プロジェクトアドバイザーである石川勝氏からコメントが示された。学生に問いかける形式が多用され、自ら考えさせることを促していたのが特徴であった。(例:「人と人をつなげる」とあったが、何のためにそうするのか。社会のためにどのように役立つのか)。また、プロジェクト活動を推し進めていく上で必要になるマネジメントやリーダーシップに関わる指摘がなされた(例:手段と目的を明確に分けることが重要。何のために、何を成し遂げたいからいこそ、このような活動をしているのかを自覚するとともに、周囲に伝えないといけない)。個別的な経験から、普遍的な学びを引き出すような問いかけも行われた(例:なぜ月見怪談のイベントにはあれだけ沢山のお客さんが来てくれたのだろうか。集客力のあるイベントとはどのようなものだろうか)。3. 講評1: 石川勝(シンク・コミュニケーションズ代表取締役、東京大学IRT研究機構特任研究員)プランナーとしての経歴紹介と、チャレンジセンターに協力することになった経緯についての自己紹介があった。続いて、「企画とは何か」というテーマについて次のように論じた。企画とは「今ある姿(現状・課題)を望むべき姿(目的)に変えていくことであり、それを実現するための手段としてプロジェクトがある」という関係の枠組みがある。この枠組みをビーチライフ創生プロジェクトにあてはめると、今ある姿とは「秋の過ごしやすいビーチを楽しむライフスタイルが定着していないこと」、それに対する望むべき姿とは「読書などビーチの新たな楽しみ方を発見してもらう」である。こういった関係を明確にしておく

とが企画の成功および企画書作成に役立つ。プロジェクトの流れは、企画期・計画期・準備期・実施期・評価期という順序で進んでいき、各時期において順に頭(アイデアを練る)・手(企画書を書く)・口(話し合う)・足(動く)・耳(他者からの評価を聴く)が重要なポイントとなる。また、必要とされるスキルとして、社会学的教養(社会の意思を読み解く力を養おう)・工学的構成力(ものごとを立体的に捉える力を養おう)・芸術的表現力(説明するな、想像させる)・体育会系の人づき合い(仕事は他者から与えられ、評価される)・自ら楽しむ力(人生の半分は仕事の時間)の5つが挙げられる。これらの頭文字をとった「社・工・芸・体・楽」という言葉を大切にしたい。プロジェクト活動を通じて、ぜひ実践力を身につけていってほしい。

4. 講評2: 杉本洋文(プロジェクトアドバイザー・工学部建築学科教授)学生の省察は「わがこと化」が不足しているのではと感じた。省察シートは、もっと自分の言葉で語ってこれるとさらに良かったと思う。具体的に、事実として、なぜそうなったのかを話してくれることを今後期待している。石川さんのプレゼンテーションは「見える化」が非常に上手いと感じた。また、プレゼンの中でも紹介されていたように、仕事を楽しむことをぜひ実現させてほしい。

2009年度

ミニセミナー

5月18日 第1回「現代GPの活動報告書について」

6月 8日 第2回「愛媛大学視察報告」

7月 6日 第3回「和歌山大学視察報告」

10月12日 第4回「関西大学・龍谷大学視察報告」

11月16日 第5回「一貫教育委員会第一部会 シンポジウム報告」

12月 7日 第6回「奄美大島での日食報告会について」



ライトパワープロジェクト



東海大学学生ロケットプロジェクト



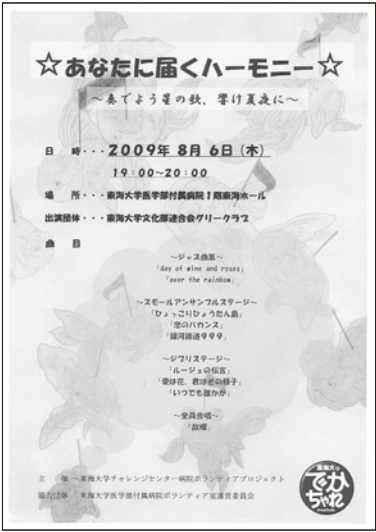
病院ボランティアプロジェクト



LINK THE LOCAL



サイエンスコミュニケーター



病院ボランティアプロジェクト



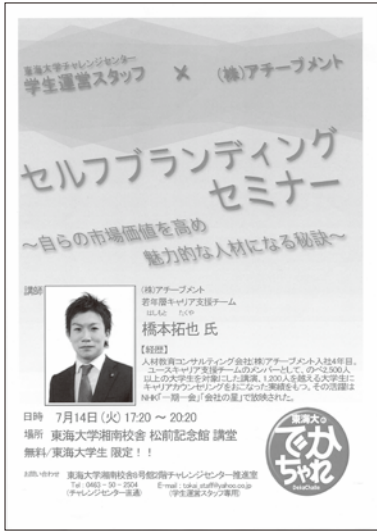
キャンパスストリートプロジェクト



キャンパスストリートプロジェクト



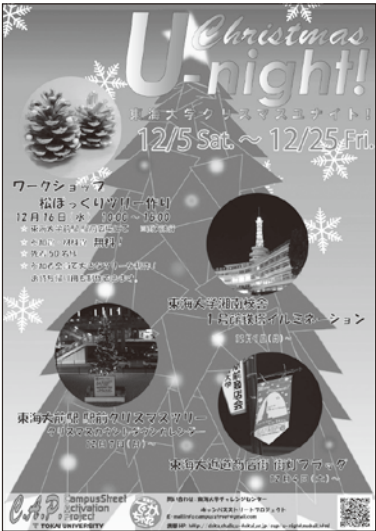
チャレンジセンター(ライトパワープロジェクト)



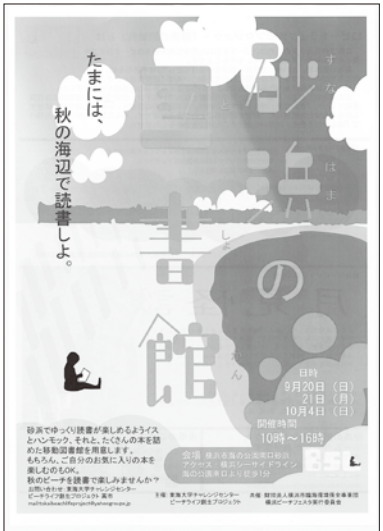
学生運営スタッフ



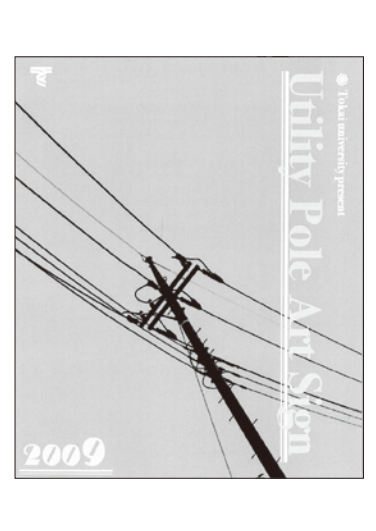
チャレンジセンター



キャンパスストリートプロジェクト



ビーチライフ創生プロジェクト



人と人をつなぐまち沼津



チャレンジセンター

ニュースリリース(湘南キャンパス)

月日	内 容
4月18日	ライトパワープロジェクト「科学技術チャレンジフェア2009」
4月29日	サイエンスコミュニケーター「モバイルプラネタリウム!みんなで楽しむ♪日食教室」
6月10日	サイエンスコミュニケーター「日食撮影教室」
6月22日	病院ボランティアプロジェクト「セミナー『食』と『医』～明日へ続く健康のために」
6月23日～26日	キャンパスストリートプロジェクト「TOKAI 音食 WEEK」
8月5日～31日	キャンパスストリートプロジェクト「湘南ひらつかビーチハウスギャラリー」
8月24日～9月4日	日本縦断キャラバン隊(全体概要)
8月25日	日本縦断キャラバン隊(福岡)
8月26日・27日	日本縦断キャラバン隊(大分)
8月28日	日本縦断キャラバン隊(高知)
8月31日	日本縦断キャラバン隊(岡山)
9月1日	日本縦断キャラバン隊(滋賀)
9月3日	日本縦断キャラバン隊(長野)
9月4日	日本縦断キャラバン隊(山梨)
9月7日	ライトパワープロジェクト「グローバル・グリーン・チャレンジ」参戦体制発表会
9月20日、21日、10月4日	ビーチライフ創生プロジェクト
10月17日	第6回セミナー WE21ジャパン理事長 郡司真弓氏による講演
10月24日	キャンパスストリートプロジェクト「おねね夜市 ～東海大学建学祭PRESTAGE★～」
10月25日～31日	ライトパワープロジェクト「グローバル・グリーン・チャレンジ」(ソーラーカー部門)に参戦
10月28日	ライトパワープロジェクト「2009グローバル・グリーン・チャレンジ(ソーラーカー部門)」優勝
11月4日	ライトパワープロジェクト「2009グローバル・グリーン・チャレンジ(ソーラーカー部門)」優勝報告会
12月4日～25日	キャンパスストリートプロジェクト「クリスマスユナイト」
12月25日	病院ボランティアプロジェクト「医学部付属病院内でクリスマスイベント」
1月10日、17日	スポーツ社会貢献プロジェクト「第2回東海スポーツ教室DAY」
1月30日	日本太陽エネルギー学会主催「電気自動車・燃料電池車・ソーラーカー製作講習会」を開催
2月22日	プロジェクト最終報告会
2月25日	春季 日本縦断キャラバン隊(愛知)
2月26日	春季 日本縦断キャラバン隊(東海大学付属小学校)

メディア露出一覧

プロジェクト名	月日	分類	媒体名
障害者自立支援プロジェクト 日本縦断キャラバン隊	5月27日	T V	TVKキャンパスパレット
	3月 5日	雑誌	タウンニュース
	5月 1日	T V	1230アッ@と!!ハマランチョ 「エコハウスタウンの紹介コーナー」
	5月 1日	その他	ハウジングプラザ横浜チラン
	6月5～7日	その他	日テレ系ecoウィーク(イベント)
	6月21日	T V	NHK総合 「SAVE THE FUTURE2009」
	8月 8日	W e b	財団法人コカ・コーラ教育・環境
	8月 9日	新聞	読売新聞
	9月 3日	新聞	長野日報社
	9月 5日	新聞	山梨日日新聞
	9月10日	新聞	読売新聞
	9月11日	新聞	読売新聞
	1月27日	新聞	日本経済新聞
サイエンスコミュニケーター	4月10日	新聞	日刊工業新聞
	4月19日	新聞	神奈川新聞
	4月22日	W e b	AstroArts
	4月24日	新聞	日本経済新聞
	7月21日	新聞	奄美新聞
	7月21日	新聞	南海日日新聞
	7月23日	新聞	読売新聞湘南版
	7月23日	新聞	奄美新聞
	7月23日	新聞	南海日日新聞
	7月23日	新聞	日本経済新聞
	7月23日	新聞	読売新聞
ビーチライフ創生プロジェクト	9月21日	新聞	神奈川新聞
	9月28日	ラジオ	FM横浜 「東海大学キャンパスインフォメーション」
	9月28日	ラジオ	FM横浜 「THE BREEZE」
	9月29日	ラジオ	ZIP-FM 「Z-TIME BIZ」
	10月 1日	ラジオ	日本放送 「上柳昌彦のお早うGood Day!」
	10月 2日	ラジオ	FM横浜 「WITH アニバーサリー」
	10月 6日	ラジオ	FM湘南ナバサ 「こちらラジオ番組制作部」

プロジェクト名	月日	分類	媒体名
キャンパスストリープロジェクト (C.A.P.)	6月25日	雑誌	タウンニュース
	8月 7日	雑誌	湘南ホームジャーナル
	8月12日	新聞	読売新聞
	8月14日	新聞	神奈川新聞
	8月15日	新聞	朝日新聞
	8月20日	新聞	タウンニュース
	9月 8日	雑誌	SUUMO新築マンション
	10月 1日	雑誌	新建築
	10月24日	雑誌	タウンニュース
	12月17日	新聞	神奈川新聞
ライトパワープロジェクト	4月19日	新聞	神奈川新聞
	4月20日	雑誌	日経エレクトロニクス
	5月 5日	新聞	秋田魁新聞
	5月23日	T V	秋田朝日放送 (AAB)
	6月 1日	雑誌	「2009ワールドエコノムーブ」
	6月21日	T V	CG CAR GRAPHIC
	7月 1日	T V	「SAVE THE FUTURE 2009」 新潟テレビ (TeNY)
	7月26日	T V	「2009ワールドエコノムーブ」 秋田朝日放送 (AAB)
	8月 6日	T V	「2009ワールドエコノムーブ」 NHK総合 「あなたが主役50ボイス」
	9月 7日	T V	テレビ東京 「ワールドビジネスサテライト」
	9月 8日	新聞	朝日新聞
	9月 8日	新聞	毎日新聞
	9月 8日	新聞	日本経済新聞
	9月 8日	新聞	読売新聞
	9月 8日	新聞	東京新聞
	9月 8日	新聞	神奈川新聞
	9月 8日	新聞	日刊工業新聞
	9月 8日	新聞	電波新聞
	9月 8日	新聞	日経産業新聞
ライトパワープロジェクト	9月 8日	新聞	スポーツ報知
	9月 8日	新聞	フジサンケイビジネスアイ
	9月 8日	新聞	電気新聞
	9月 8日	新聞	化学工業日報

プロジェクト名	月日	分類	媒体名
ライトパワープロジェクト	9月 8日	T V	テレビ東京 「モーニングサテライト」
	9月 8日	T V	NHK総合 「おはよう日本」
	9月 8日	W e b	東京新聞
	9月 8日	W e b	japan.internet.com
	9月 8日	W e b	Yahoo! ニュース
	9月11日	新聞	タウンニュース
	9月12日	W e b	毎日新聞
	9月18日	新聞	科学新聞
	9月24日	雑誌	driver
	9月26日	雑誌	ベストカー
	9月28日	T V	秋田朝日放送 (AAB) 「スーパー」チャンネル
	10月 1日	雑誌	ELECTRONICS
	10月 1日	雑誌	monthlyコロンプス
	10月19日	雑誌	car styling
	10月27日	T V	NHK総合 「News Watch 9」
	10月28日	T V	NHK総合 「News Watch 9」
	10月28日	T V	TBS 「イブニングワイド」
	10月28日	W e b	共同通信
	10月28日	W e b	時事通信
	10月28日	W e b	Yahoo! ニュース
ライトパワープロジェクト	10月28日	W e b	AFPBB News
	10月28日	W e b	IBTimes
	10月28日	新聞	秋田魁新報
	10月28日	新聞	山梨日日新聞
	10月28日	新聞	福井新聞
	10月28日	新聞	中国新聞
	10月28日	新聞	河北新報
	10月28日	新聞	スポーツニッポン
	10月28日	新聞	スポーツ報知
	10月28日	新聞	TBS
	10月28日	新聞	シドニー通信
	10月28日	新聞	読売シドニー
	10月29日	新聞	読売新聞
	10月29日	新聞	東京新聞
	10月29日	新聞	産経新聞
	10月29日	新聞	毎日新聞
	10月29日	新聞	サンケイスポーツ
	10月29日	新聞	サンケイエクスプレス
ライトパワープロジェクト	10月29日	新聞	神奈川新聞
	10月29日	新聞	東京中日スポーツ
	10月29日	T V	TBS 「みのもんたの朝ズバッ!」
	10月29日	W e b	SHARP オフィシャルHP
	10月29日	W e b	ナビコン
	10月29日	W e b	シゴトの計画
	10月29日	新聞	かながわスポーツ
	10月29日	新聞	南日本新聞
	11月 3日	ラジオ	FM東京 「WONDAモーニングショット WAKE UP NEWS」
	11月 4日	W e b	Car Watch
	11月 5日	W e b	Tech-On!
	11月 5日	新聞	電波新聞
	11月 5日	新聞	東京中日スポーツ
	11月 6日	新聞	電気新聞
	11月 7日	新聞	熊本日日新聞
	11月 7日	T V	BSジャパン 「Nikkei eco X eco」
	11月 7日	新聞	タウンニュース
	11月10日	新聞	南日本新聞
	11月12日	T V	TBS 「ニュースバード」
ライトパワープロジェクト	11月12日	新聞	読売新聞
	11月12日	新聞	朝日新聞
	11月12日	新聞	日本経済新聞
	11月15日	新聞	東京新聞
	11月21日	雑誌	リビング湘南
	11月21日	雑誌	リビング平塚・大磯・二宮
	11月23日	ラジオ	FM横浜 「Morning Steps スポーツマニア」
	11月24日	新聞	毎日新聞
	11月26日	雑誌	LE VOLANT
	11月23～27日	ラジオ	J-Wave 「LOHAS TALK」
	12月 1日	新聞	中日新聞
	12月 1日	雑誌	CAR GRAPHIC
	12月 7日	新聞	朝日新聞
	12月 9日	ラジオ	FM横浜 「Morning Steps」
	12月10日	T V	NHK総合 「News Watch 9」
	12月14日	雑誌	蜃雪時代
	12月19日	T V	山梨放送 (YBS) カナエルチカラ09「太陽がくれたチャンス」
	12月21日	雑誌	car styling

プロジェクト名	月日	分類	媒体名
ライトパワープロジェクト	12月25日	雑誌	LE VOLANT
	12月27日	T V	青森放送 (RAB) カナエルチカラ09「太陽がくれたチャンス」
	12月28日	T V	山口放送 (KRY) カナエルチカラ09「太陽がくれたチャンス」
	12月29日	T V	福島中央テレビ (FCT) カナエルチカラ09「太陽がくれたチャンス」
	12月29日	T V	山形放送 (YBC) カナエルチカラ09「太陽がくれたチャンス」
	12月30日	T V	テレビ信州 (TSB) カナエルチカラ09「太陽がくれたチャンス」
	12月30日	T V	北日本放送 (KNB) カナエルチカラ09「太陽がくれたチャンス」
	12月30日	T V	四国放送 (JRT) カナエルチカラ09「太陽がくれたチャンス」
	12月31日	T V	秋田放送 (ABS) カナエルチカラ09「太陽がくれたチャンス」
	12月	W e b	(独) 科学技術振興機構 HP
	1月 1日	新聞	神奈川新聞
	1月 1日	新聞	読売新聞
	1月 1日	W e b	独立行政法人日本科学技術振興機構 JST
	1月 1日	T V	SHARP 「TV スポット CM」
	1月 3日	T V	静岡第一テレビ (SDT) カナエルチカラ09「太陽がくれたチャンス」
	1月 5日	雑誌	ソトコト
	1月 7日	その他	SHARP
	1月 7日	新聞	朝日新聞
	1月 9日	新聞	読売新聞
	1月15日	T V	高知放送 (RKC) カナエルチカラ09「太陽がくれたチャンス」
ライトパワープロジェクト	1月18日	雑誌	TIME
	1月18日	雑誌	Newsweek
	1月21日	T V	NHK 総合 「おはよう日本」
	1月23日	T V	NHK 総合 「ワンダー × ワンダー」
	1月24日	新聞	秋田魁新報
	1月29日	雑誌	NHK ウィークリー 「ステラ」
	2月 1日	雑誌	HighlightingJAPAN through images
	2月19日	新聞	山梨日日新聞
	2月19日	雑誌	car styling
	2月21日	T V	NHK BS hi 「ハイビジョン特集」
	2月21日	雑誌	car styling
	2月22日	W e b	カナロコ
	2月23日	新聞	神奈川新聞
	2月28日	T V	NHK BS hi 「ハイビジョン特集」
	2月	T V	毎日放送 MBS 「関西地域 VOICE」
	3月 4日	T V	テレビ新潟 (TeNY) カナエルチカラ09「太陽がくれたチャンス」
	3月 5日	書籍	朝日新聞出版「朝日ジュニア学習年鑑 2010」
	3月10日	雑誌	交通タイムス 「XaCAR」
	3月11日	T V	TBS ニュースバード「ニュースの視点」
ライトパワープロジェクト	3月15日	雑誌	「Motor Fan illustrated」
	3月16日	雑誌	ActiveVehicle
	3月23日	ラジオ	TBS 「大沢悠里のゆうゆうワイド」
	3月25日	T V	NHK 総合 「ワンダー × ワンダー」
	3月30日	書籍	朝日新聞出版「電気自動車ウォーズ」
	4月10日	新聞	日刊工業新聞
ロケットプロジェクト	4月19日	新聞	神奈川新聞
	5月 1日	雑誌	リクルートカレッジマネジメント
	8月26日	新聞	156 号
	11月 6日	W e b	北羽新報
	11月29日	雑誌	日本航空宇宙学会誌
TOKAI DESIGN PROJECT	12月 5日	雑誌	Robot Watch
	10月 6日	新聞	北海道新聞
福祉除雪プロジェクト	12月21日	新聞	北海道新聞
	1月22日	ラジオ	そら色ステーション 「ラジオ雪通 - 暮らしやすい冬の暮らしを考える -」
	4月27日	新聞	毎日新聞
木工制作でおこなう社会貢献プロジェクト 人と人をつなぐまち沼津	4月26日	新聞	沼津朝日新聞
	4月26日	新聞	静岡新聞
	8月 8日	新聞	静岡新聞
	8月16日	新聞	沼津朝日新聞
	11月 5日	新聞	毎日新聞
	11月 8日	新聞	沼津朝日新聞
LINK THE LOCAL	9月14日	新聞	熊本日日新聞
	8月10日	T V	熊本放送 (RKK) 「ライブくまもと」
阿蘇援農コミュニティプロジェクト	8月24日	T V	テレビ熊本 (TKU)
	8月26日	新聞	熊本日日新聞
	9月 1日	T V	熊本県民テレビ (KKT) 「テレビタミン」

2009年度活動一覧

4月						
月	火	水	木	金	土	日
		1	2 〔清水〕科目ガイダンス説明会 〔清水〕科目履修相談チャレンスコ目	3 〔沼津〕全体ガイダンス	4	5
6 〔清水〕チャレンジセンター説明会	7 〔高輪〕チャレンジセンターガイダンス 〔熊本〕学生生活ガイダンス 〔阿蘇〕新入生ガイダンス	8 〔札幌〕チャレンジセンター説明会	9 〔湘南〕チャレンジセンターガイダンス	10 〔旭川〕チャレンジセンター説明会	11 〔代々木〕チャレンジセンター説明会	12
			〔湘南〕プロジェクト説明会			
13	14	15 〔札幌〕チャレンジセンター説明会 〔旭川〕チャレンジセンター説明会 〔阿蘇〕チャレンジセンターガイダンス	16	17	18 科学技術チャレンジフェア2009 「学生企画申請要領」エントリー締切	19
〔湘南〕プロジェクト説明会						
20	21	22	23	24 「プロジェクト計画書」提出締切 「プロジェクト申請書」提出締切	25 〔代々木〕チャレンジセンター説明会 〔沼津〕沼津:「OHANART」開催	26
〔湘南〕プロジェクト説明会						
27	28	29 〔湘南〕サイエンス「みんなであそびの日」食教室開催	30			

5月						
月	火	水	木	金	土	日
				1 休校日	2 休校日	3 憲法記念日 〔湘南〕ライトパワー: 2009 World Econo Move (秋田県大湯村)
4 みどりの日 〔湘南〕ライトパワー: 2009 World Econo Move (秋田県大湯村)	5 こどもの日	6 振替休日	7 ユニークプロジェクト応募締切	8 〔湘南〕ライトパワー:環太平洋自然エネルギー国際フォーラム	9 プロジェクト審査会	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27 第1回プロジェクト協議会 (全校舎)	28	29	30	31 〔湘南〕ライトパワー:第11回豊橋エコテクナレース

6月

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6 [湘南]サイエンス:望星丸一般公開イベント(展示)	7 [湘南]Green:街ビカ(朝のゴミ拾い)
8 [湘南]TFC:湘南ヒストリック カークラブ出展・走行 [湘南]Green:街ビカ(朝のゴミ拾い)	9	10 [湘南]サイエンス: 感動を残そう☆日食写真撮影講座	11	12	13	14 [清水]東海人カレースポート: オープンキャンパス出展 [熊本]ACOT:オープンキャンパス出展
15	16	17	18	19	20	21 [湘南]キャリアコン:「NHK「SAVE THE FUTURE 2009」出演
22 [湘南]病ボラ:第3回セミナー 「『食』と『医』」	23 [湘南]C.A.P.:TOKAI音食WEEK	24 [湘・清・沼]「熊・阿」 第2回プロジェクト協議会(地区別)	25	26 [札幌・旭川] 第2回プロジェクト協議会(地区別)	27 [湘南]ライトパワー:「NHK「SAVE THE FUTURE 2009」ソーラーカー展示」	28
[湘南]Green:街ビカ(朝のゴミ拾い)		[湘南]ライトパワー:「第4回新エネルギー世界展示会」展示				
29	30					

7月						
月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5 〔熊本〕スガ社:ゼロから始めるスポーツ体験教室 〔湘南〕ロケット:第27回ISTS国際宇宙展示会出展
6	7	8	9	10	11	12
13 〔湘南〕MAP: 夏のコンサート開催	14	15 第3回プロジェクト協議会 (全校舎) 〔湘南〕ライトパワー:AT International 2009 電気自動車&燃料電池車出展	16 2010年度プロジェクト 応募説明会(全校舎)	17	18	19
20	21	22 皆既日食 東海大学皆既日食観測プロジェクト	23	24	25	26 〔湘南〕ライトパワー:明野 サンフラワーフェスティバル ソーラーカーデモ走行
〔湘南〕サイエンス:奄美大島で日食教室開催				〔湘南〕TDP:ヨコハマ・ヒューマン&テクノロジーランド2009		
27	28	29	30	31		

8月

月	火	水	木	金	土	日
2	3 [阿蘇] 阿蘇援農:夏の援農活動実施	4	5	6 [湘南] 病ボラ:第4回癒しのイベント 「あなたに届けハモニー」	7 [湘南] 沼津:にこにこふれあいツアー [湘南] ロケット:「機械の日」講演会	1 [湘南] Green:Mission in 打ち水 8
9	10 [阿蘇] 阿蘇援農:夏の援農活動実施 [湘南] C.A.P.:湘南ひらつかビーチハウスギャラリー開催	11	12 [湘南] C.A.P.:湘南ひらつかビーチハウスギャラリー開催	13	14	15
16	17 [湘南] C.A.P.:湘南ひらつかビーチハウスギャラリー開催	18	19	20 [湘南] ロケット:能代宇宙イベント	21 [湘南] TFC: 学生フォーミュラもてぎ試走会	22 [熊本] ACOT: ETロボコン2009走行会
23	24 [湘南] ロケット:能代宇宙イベント	25 [湘南] ライトパワー:かながわ発・中高校生のための大学セミナー	26	27	28	29
	[阿蘇] 阿蘇援農:夏の援農活動実施 [湘南] キャラバン:夏の旅					
	[湘南] C.A.P.:湘南ひらつかビーチハウスギャラリー開催					
30	31 [湘南] Green:Mission in 打ち水					
	[阿蘇] 阿蘇援農:夏の援農活動実施 [湘南] キャラバン:夏の旅 [湘南] C.A.P.:湘南ひらつかビーチハウスギャラリー開催					

9月

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5 [熊本] ACOT: ETロボコン2009九州地区大会
6 [熊本] ACOT: ETロボコン2009 九州地区大会	7 [湘南] ライトパワー: グローバル・ グリーン・チャレンジ参戦発表会	8	9	10	11	12 [熊本] LINK: 「ものづくり工房」開催 [湘南] ライトパワー: 亀山つなぎん祭
	[阿蘇] 阿蘇援農: 夏の援農活動実施		[湘南] TFC: 第7回全日本学生フォーミュラ大会			
13	14 [湘南] キャラバン: 「コカ・コーラ環境教育賞」受賞	15	16 [札幌] 福祉除雪: 地域の災害避難訓練参加	17	18	19 [湘南] ロケット: 宇宙開発フォーラム (SDF) 2009
[阿蘇] 阿蘇援農: 夏の援農活動実施						
20 [湘南] ロケット: 宇宙開発フォーラム (SDF) 2009 [湘南] ライトパワー: 学生入札行概文法会	21	22	23	24	25	26
[湘南] ビーチ創生: 砂浜の図書館						
27	28	29	30 [湘・清・沼] [熊・阿] 第4回プロジェクト協議会 (地区別)	31		

10月						
月	火	水	木	金	土	日
			1 2010年度チャレンジプロジェクト 募集開始	2	3 〔湘南〕ロケット: 第19回モデルロケット全国大会	4 〔湘南〕ビーチ創生: 砂浜の図書館
5	6	7	8	9	10 〔湘南〕スガ社:大根祭	11
12	13	14	15	16	17 チャレンジセンターセミナーと プロジェクト中間報告会	18
19 〔湘南〕C.A.P.: ThLive!vol.10発行	20	21	22	23	24 〔湘南〕C.A.P.:おおな夜市〜 東海大学建学祭PRESTAGE★〜	25 〔湘南〕キャラバン:環境教室
26	27	28 〔湘・清・沼〕〔熊・阿〕第5回 プロジェクト協議会(地区別)	29	30 第55回東海大学建学祭 VIVA!	31	
〔湘南〕ライトパワー:グローバル・グリーン・チャレンジ参戦!!						

11月						
月	火	水	木	金	土	日
						1 〔湘南〕ライトパワー: 全日本紙飛行機選手権大会 第55回東海大学建学祭 VIVA! 〔湘南〕TDP:東京デザイナーズウィーク2009
2 第55回東海大学建学祭 VIVA! 〔湘南〕TDP:東京デザイナーズウィーク2009	3 〔湘南〕ライトパワー: ホームカミングデーGGC優勝報告	4 〔湘南〕ライトパワー: GGC優勝報告会	5	6	7 2010年度新規プロジェクト: 応募締切	8
9 〔湘南〕Green:街ビカ(朝のゴミ拾い)	10	11	12	13	14	15
		〔湘南〕ロケット:東京国際航空宇宙産業展2009				
		プロジェクト説明会				
16 2010年度プロジェクト計画書提出締め	17	18	19	20	21	22
23	24	25 〔湘・清・沼〕〔札・旭〕〔熊・阿〕 第6回プロジェクト協議会(地区別) 〔湘南〕MAP:秋のコンサート開催	26	27	28 〔湘南〕病ボラ:第4回セミナー 「カラーセラピー」	29 〔湘南〕TFC: 第42回SHCCミーティング参加
〔湘南〕Green:街ビカ(朝のゴミ拾い)					〔湘南〕ロケット:8th UNISEC WORKSHOP 2009	
30 〔湘南〕障がい:ノートテイク 講習会開催						

12月						
月	火	水	木	金	土	日
	1 〔熊本〕肥後:「学生ベンチャー・夢挑戦 ビジネス大賞2009inくまもと」奨励賞受賞	2	3 〔熊本〕ACOT:付属第二高等学校で 技術支援	4	5 〔湘南〕C.A.P.:東海大学クリスマスU-Night!	6
7 〔湘南〕福祉除雪: 出陣報告	8	9 〔湘南〕TICC:国際理解シンポジウム 外国人児童・生徒が抱える問題を 理解しよう 「ランドセル」って何に使うの?」	10 〔湘南〕障がい:パソコンテイク講習会 〔熊本〕ACOT:付属第二高等学校で 技術支援 〔湘南〕ライトパワー:エコプロダクツ2009	11	12 〔湘南〕ライトパワー: ものづくり教室開催	13 〔湘南〕Green:若葉会談
〔湘南〕C.A.P.:東海大学クリスマスU-Night!						
14	15	16 〔湘・清・沼〕 第7回プロジェクト協議会 (地区別)	17 〔湘南〕障自: 学生ボランティア団体助成に 採択	18 〔湘南〕ライトパワー:第二回全国燃料電池車大賞2009明道国際燃料電池車観摩賽	19 〔湘南〕ライトパワー:山梨放送 「カネエルチカラ2009太陽がくれたチャンス」	20 〔湘南〕MAP:第九発表会
〔湘南〕C.A.P.:東海大学クリスマスU-Night!						
21 〔札幌〕福祉除雪: 除雪活動の初出動	22	23	24 〔湘南〕病ボラ:イベント 「クリスマスマジック」開催 〔熊本〕阿蘇援農:冬の援農活動実施	25 〔湘南〕病ボラ:第5回癒しのイベント 「Happy X'mas」	26 〔湘南〕キャラバン:ecocon2009参加	27
〔湘南〕C.A.P.:東海大学クリスマスU-Night!						
28	29	30	31			

1月						
月	火	水	木	金	土	日
				1 元旦	2	3
4	5	6	7 〔湘南〕ライトパワー:2010International CES ソーラーカー展示	8	9	10 〔熊本〕スガ社:第二回東海スポーツ教室DAY
11	12	13 〔湘・清・沼〕第8回プロジェクト協議会(地区別)	14	15	16	17 〔湘南〕スガ社:第二回東海スポーツ教室DAY
18	19	20	21	22	23 〔湘南〕ライトパワー: NHK総合ワンダー×ワンダー 「ソーラーカー 大陸縦断レース」	24
25	26	27	28	29	30 〔湘南〕ライトパワー: 電気自動車・燃料電池車・ ソーラーカー製作講習会	31 〔湘南〕病ボラ: 小児科季節のイベント(節分)

2月						
月	火	水	木	金	土	日
1	2	3 〔湘南〕病ボラ: 小児科季節のイベント(節分)	4 〔湘南〕障がい:病ボラ・障自: 3プロジェクト合同勉強会	5	6	7
8	9	10	11	12 〔湘南〕キャラバン:環境教室	13	14
15	16	17	18	19	20 〔湘南〕障自:みんなdeラポール 「精華園のお友達と遊ぼう!」	21 〔湘南〕ライトパワー: NHK Bshi「ハイビジョン」特集 「大陸縦断3千キロ ソーラーカーが走る!」
22 プロジェクト最終報告会	23	24 〔湘南〕キャラバン:春期キャラバン	25	26 〔熊本〕ACOT:成果発表会	27	28 〔湘南〕病ボラ: 小児科季節のイベント(ひなまつり)

3月						
月	火	水	木	金	土	日
1	2	3 〔湘南〕ライトパワー:PV EXPO2010出展	4	5	6	7
8	9	10	11 〔湘南〕TFC:富士スピードウェイ走行会	12	13	14 〔湘南〕TDP: 年度末展示 2 0 0 9
15	16	17 〔湘南〕障自:応用物理学会バン販売 〔湘南〕ライトパワー:応用物理学会ソーラーカー展示	18	19 〔湘南〕ロケット:第8期 ハイブリッドロケット打ち上げ実験	20	21
22	23 〔湘南〕C.A.P.: ThLive!vol.11発行	24 〔湘南〕ライトパワー: NHK総合ワンダー×ワンダー 「ソーラーカー 大陸縦断レース」	25	26	27	28
29	30	31				

ライトパワー:ライトパワープロジェクト	障がい:障がい学生支援プロジェクト	沼津:人と人をつなぐまち沼津	TICC:Tokai International Communication Club
ロケット:東海大学学生ロケットプロジェクト	福祉除雪:福祉除雪プロジェクト	LINK:LINK THE LOCAL	サイエンス:サイエンスコミュニケーター
TFC:Tokai Formula Club	木工:木工制作でおこなう社会貢献プロジェクト	阿蘇援農:阿蘇援農コミュニティープロジェクト	MAP:Music Art Project
ACOT:先端技術コミュニティ「ACOT」	C.A.P.:キャンパスストリートプロジェクト	肥後:肥後のたまもの	TDP:Tokai Design Project
障自:障害者自立支援プロジェクト	ビーチ創生:ビーチライフ創生プロジェクト	キャラバン:日本縦断キャラバン隊	
病ボラ:病院ボランティアプロジェクト	スガ社:スポーツ社会貢献プロジェクト	Green:Green Communications	

湘南キャンバス…湘 札幌キャンバス…札幌 旭川キャンバス…旭 清水キャンバス…清 沼津キャンバス…沼 熊本キャンバス…熊 阿蘇キャンバス…阿